

科目名 (英)	英会話 Global Communication	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	Jeremy September
学科・コース	音楽コミュニケーション科(3年制昼間 I 部)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4	開講区分 曜日・時限	年間 木曜2限
教員の略歴	2007年、東北大学で経営修士号を取得する傍ら、長年英語教育に従事。Active Learningに取り組みコミュニケーション主体の授業を実施。						
授業の学習内容	外国人を前に怖がったり恥ずかしがったりせず、流暢でなくても意思疎通を図ろうとする「姿勢」を身につける。						
到達目標	英語で挨拶したり、自分の言いたいことを伝え、相手の言っていることを理解するなど、日常の場面で簡単な英語コミュニケーションが出来るようになる。						
評価方法と基準	定期テスト(筆記100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	L1 挨拶が出来るようになる	オンラインプラクティス L1
2	/	講義	L2 アセスメントテスト	オンラインプラクティス L2
3	/	講義	L3 個人の情報を聞きだすことが出来るようになる	オンラインプラクティス L3
4	/	講義	L4 もう一度言ってもらえるようお願い出来る	オンラインプラクティス L4
5	/	講義	L5 好き嫌いを表現出来るようになる	オンラインプラクティス L5
6	/	講義	L6 相手に質問で返すことができるようになる	オンラインプラクティス L6
7	/	講義	L7 相手に意見を聞くことが出来るようになる	オンラインプラクティス L7
8	/	講義	L8 相手に意見を伝えることができるようになる	オンラインプラクティス L8
9	/	講義	L9 誘いに返答することが出来るようになる	オンラインプラクティス L9
10	/	講義	L10 相手の家族について質問出来るようになる	オンラインプラクティス L10
11	/	講義	L11 自身の家族について説明出来るようになる	オンラインプラクティス L11
12	/	講義	L12 誘相手について褒めることが出来るようになる	オンラインプラクティス L12
13	/	講義	L13 褒め言葉に返答出来るようになる	オンラインプラクティス L13
14	/	定期試験	定期試験 アセスメントテスト	
15	/	講義	試験解説	
16	/	講義	L14 時間を尋ねることが出来るようになる	オンラインプラクティス L14
17	/	講義	L15 時間を伝えることが出来るようになる	オンラインプラクティス L15
18	/	講義	L16 相手の日課について質問出来るようになる	オンラインプラクティス L16
19	/	講義	L17 自分の日課について説明出来るようになる	オンラインプラクティス L17
20	/	講義	L18 継続して質問することが出来るようになる	オンラインプラクティス L18
21	/	講義	L19 ある場所の位置について質問出来るようになる	オンラインプラクティス L19
22	/	講義	L20 ある場所の位置を説明出来るようになる	オンラインプラクティス L20
23	/	講義	L21 道案内が出来る、道順を尋ねることが出来るようになる	オンラインプラクティス L21
24	/	講義	L22 ある行動の頻度について尋ねることが出来るようになる	オンラインプラクティス L22
25	/	講義	L23 ある行動の頻度を説明出来るようになる	オンラインプラクティス L23
26	/	講義	L24 ある食べ物について質問出来るようになる ある食べ物を説明出来るようになる	オンラインプラクティス L24
27	/	講義	L25 過去の出来事について話すことが出来るようになる 過去の出来事について尋ねることが出来るようになる	オンラインプラクティス L25
28	/	講義	L26 予定について質問出来るようになる 予定について説明出来るようになる	オンラインプラクティス L26
29	/	定期試験	定期試験 アセスメントテスト	
30	/	講義	試験解説	
準備学習 時間外学習			自宅で教科書に付随するオンラインプラクティスの内容を活用し、予習・復習を行うこと。	
【使用教科書・教材・参考書】 □				
Speak Now 1				

科目名 (英)	音楽史 (ROCK & POP HISTORY)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	佐藤晃彦
学科・コース	音楽コミュニケーション科(3年制昼間I部)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4	開講区分	年間 曜日・時限 火曜2限
教員の略歴	1978年より音響やローディーなどの仕事に関わり、舞台監督としてREBECCA、THE BOOM、Char、中森明菜等のコンサートを制作する。						
授業の学習内容	職業として音楽と関わっていくための基礎知識を学び、これまでどのようにして音楽が伝わり、楽しまれてきたのかを理解する。またその背景にある社会や政治の変化、録音技術や楽器の変化を知り、次の時代の音楽を創作していくための想像力を養う。						
到達目標	自分のお気に入りの音楽に耳を傾けるばかりではなく、様々な時代、ジャンルの音楽を知ることによって視野を広げる。音の表現方法について、アイデアによって達成出来る世界が広がり、新たな音楽を創造する。						
評価方法と基準	授業内評価40% 定期試験 30% レポート提出 30% ポップスの歴史の概略を説明することができる。楽曲を聴いて、時代やルーツを説明することができる。みずから進んで楽曲の構造や文化的意味について探求心を持つことができる。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	プロテストソングとして歌われたヘイズジュードについて学ぶ	感想文、関連する楽曲を探す
2	/	講義	<small>「You Raise Me Up」(Londenberg Air)「Danny Boy」(E)を中心にそれぞれの音楽に特徴や歴史があることを知る。</small>	感想文、関連する楽曲を探す
3	/	講義	「朝日のおたる家」の伝承/口承からフォーク、ロックへの変化について学ぶ	感想文、関連する楽曲を探す
4	/	講義	フレンチポップスの影響について学ぶ	感想文、関連する楽曲を探す
5	/	講義	<small>ロック音楽の発展と同時期のソウルの発展について説明を行い、特にリズム・ブルース(R&amp;B)のよう楽譜について学ぶ。</small>	感想文、関連する楽曲を探す
6	/	講義	ソウルの誕生について学ぶ	感想文、関連する楽曲を探す
7	/	講義	ギターインストメンタル/日本のエレキブームについて学ぶ	感想文、関連する楽曲を探す
8	/	講義	スキッフルとビートルズ誕生について学ぶ	感想文、関連する楽曲を探す
9	/	講義	ビートルズの米進出とブリティッシュインヴェイジョンについて学ぶ	感想文、関連する楽曲を探す
10	/	講義	ブリティッシュインヴェイジョンについて学ぶ	感想文、関連する楽曲を探す
11	/	講義	フォークとフォークロックについて学ぶ	感想文、関連する楽曲を探す
12	/	講義	R&Bの死とサーフミュージック、ロックンロール英国上陸について学ぶ	感想文、関連する楽曲を探す
13	/	講義	ビートルズ上陸以前の日本のポップスについて学ぶ	感想文、関連する楽曲を探す
14	/	講義	ビートルズとブリティッシュビートについて学ぶ	感想文、関連する楽曲を探す
15	/	試験		
16	/	講義	ベンチャーズとビートルズの日本上陸について学ぶ	感想文、関連する楽曲を探す
17	/	講義	フォークソングとビートルズのアメリカ上陸について学ぶ	感想文、関連する楽曲を探す
18	/	講義	<small>モータウン、アトランティックを中心に1960年代に開花したソウル・ミュージック・シーンについて学ぶ</small>	感想文、関連する楽曲を探す
19	/	講義	ウッドストックを中心に1960年代後半のアメリカを知る。	感想文、関連する楽曲を探す
20	/	講義	カレッジから発達したフォークと反抗の証としてのフォークについて学ぶ	感想文、関連する楽曲を探す
21	/	講義	<small>ビートルズ、サイモン&amp;ガーファインズの発展、ジ・ヘンドリックス、ジ・ニクス(アリス)など伝説的バンドのロックについて学ぶ</small>	感想文、関連する楽曲を探す
22	/	講義	<small>70年代の作品を中心に各ジャンルをクロスオーバーさせた音楽手帳について学ぶ</small>	感想文、関連する楽曲を探す
23	/	講義	日本のロック風土(1)輸入音楽であったロックを日本独自の解釈で制作した初期作品について学ぶ	感想文、関連する楽曲を探す
24	/	講義	<small>日本のロック風土(2)日本風ロックの発展について学ぶ。嵐などのバンドのロックが海外にも知られる影響について学ぶ</small>	感想文、関連する楽曲を探す
25	/	講義	ファンクとソウルのディスコ化、その波が白人音楽へもたらした影響について学ぶ	感想文、関連する楽曲を探す
26	/	講義	アダルト指向を強めた時代背景とジャズ界とコラボレーションを始めたロックの時代背景について学ぶ	感想文、関連する楽曲を探す
27	/	講義	グラムの特徴となつた、男性の化粧、両性具有的イメージ、虚構性、職業性などの広がりについて学ぶ	感想文、関連する楽曲を探す
28	/	講義	テクノ/ポップの誕生電子楽器の変化を中心にプログレからテクノへの変化について学ぶ。	感想文、関連する楽曲を探す
29	/	講義	ヒップホップが生まれた社会背景、現代のR&B、ゴスペルなど黒人音楽までの変化について学ぶ	感想文、関連する楽曲を探す
30	/	試験		
準備学習 時間外学習		授業内で取り上げた楽曲、アーティストに関連するものを探る		
【使用教科書・教材・参考書】 ロック&ポップス史 洋楽編、邦楽編、CD、DVD				

科目名 (英)	IT (information technology)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	唐澤淳
学科・コース	音楽コミュニケーション科(3年制昼間I部)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4	開講区分	年間 曜日・時限 水曜2限
教員の略歴	1992年よりフリーランスローディーとして活動し、現在は起業してアーティスト及びクリエイターの育成やマネジメントなどを手掛ける						
授業の学習内容	Excelを中心に基本的な使い方から、現場で役立つ応用まで1年かけて身につけていく。 Microsoftの検定を取れるようにするのではなく、あくまでも業界でよく使われたり役立つ部分に特化して即戦力を 目指してスキルを身に付けます。 現在の就職におけるパソコンスキルは必須となっており、またその求められるレベルは年々上がってきています。 テクノロジーの進化と最新のソフトウェアにも対応が求められるため、習得すべきスキルは多いのですが、エンタ メ業界で働く上で最低限のスキルを効率よく習得できるように授業は進めていきます。						
到達目標	以下の3点が達成出来るようになることを目標としている。 (1)Excelの基本的な使い方(表のデザイン、計算式)を身につける。 (2)PowerPointの基本的な使い方(身につけプレゼンテーションスキルを上げる。 (3)Wordの基本的な使い方を身につける。						
評価方法と基準	1. 実技試験(%) : 50% 2. 筆記試験(%) : 0% 3. 課題(%) : 50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	／	講義	ITリテラシーとPCの基礎知識を学ぶ	ITリテラシー理解度テストを行う
2	／	講義	【PowerPoint】PPの基本仕様、Word、Excelとの互換性を学ぶ	自分の好きなタレントを紹介するPP資料を3ページ以内で作成する
3	／	講義	【PowerPoint】プロフィールシート作りを行う	自分のプロフィールシートを完成させる
4	／	講義	【PowerPoint】プレゼン資料作りを行う	資料の完成をさせる
5	／	講義	【PowerPoint】プレゼン資料発表を行う	一年間の総復習を各自、漏らさずすること
6	／	講義	【Excel】表について、表の作り方を理解する、タイムテーブル編作成する	表の構成方法を様々なパターンで考えてくる
7	／	講義	【Excel】表の作り方/タイムテーブルの横軸が作成出来るようになる	授業内課題を60分以内で作成出来るように練習する
8	／	講義	【Excel】表の作り方/タイムテーブルの縦軸が作成出来るようになる	授業内課題を45分以内で作成出来るように練習する
9	／	講義	【Excel】表と計算式/動員集計表が作成出来るようになる	計算式の基本概念を復習し、自分で幾つか試して覚える
10	／	講義	【Excel】表と計算式/売り上げ管理表を理解する。作成出来るようになる	数式の公式の構成の仕組みを自分で試しながら理解してくる
11	／	講義	【Excel】表と計算式/売り上げ管理表を理解する。作成出来るようになる	授業内課題を60分以内で作成出来るように練習
12	／	講義	【Excel】表と計算式/テストの平均点を理解し、作成出来るようになる	授業内課題を45分以内で作成出来るように練習
13	／	講義	【Excel】表と計算式/予算表を作成出来るようになる	様々な数式の種類と構成を調べ、まとめてくる
14	／	講義	【Excel】図形描画/イベントシートとステージ簡易図面が作成出来るようになる	自分の家の部屋を使って、図面を作成する
15	／	講義	【Office】これまで学習したスキルをもって、新たな作品を製作する	
16	／	講義	【Illustrator】オブジェクトを使ったイラスト/ベジェ曲線の使い方を学ぶ	ベジェ曲線を使って、指定されたイラストを描いてくること
17	／	講義	【Illustrator】ロゴマーク作成/文字のアウトライン化、クリッピングマスクの使い方を学ぶ	指定されたロゴマークを、トレースしてくる
18	／	講義	【Photoshop】画像解像度、保存形式を学ぶ	人物を被写体とした写真を高解像度で数点撮影してくる
19	／	講義	【Photoshop】色調補正、カラーモード、レタッチの使い方を学ぶ	風景写真を撮り、覚えた技術で美しい作品を作る
20	／	講義	【Photoshop】切り抜きと合成の使い方を学ぶ	単色背景の前で撮影したものを使い、高度な合成作品を作る
21	／	講義	【Premiere】基本的な概念を習得する	動画編集の基本概念を復習し、自分で幾つか試して覚える
22	／	講義	【Premiere】Lyric Video製作を通してレイヤー・タイトル・波形の使い方を習得する	動画編集の基本概念を復習し、自分で幾つか試して覚える
23	／	講義	【Premiere】Lyric Video製作を通して文字エフェクト・Fadeの使い方を習得する	授業内課題を60分以内で作成出来るように練習する
24	／	講義	【Premiere】Lyric Video製作を通して画像・動画の挿入を習得する	授業内課題を60分以内で作成出来るように練習する
25	／	講義	【Premiere他】Illustrator・photoshopとの連携を習得する	授業内課題を60分以内で作成出来るように練習する
26	／	講義	【Premiere】Lyric Video製作を通してレンダリングを習得する	授業内課題を60分以内で作成出来るように練習する
27	／	講義	【Premiere】Lyric Video製作を通して書き出し/仕上げを習得する	授業内課題を60分以内で作成出来るように練習する
28	／	講義	【Premiere】動画素材の撮影・デバイスから動画の取り込み・OT録画を習得する	授業内課題を60分以内で作成出来るように練習する
29	／	講義	【Premiere】動画作成を課題に複数カメラからの編集を習得する	授業内課題を60分以内で作成出来るように練習する
30	／	試験	【Premiere】これまで学習したスキルをもって、新たな作品を製作する	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □ 必要に応じてプリント配布				

科目名 (英)	著作権 (MUSIC COPYRIGHT)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	及川有正
学科・コース	音楽コミュニケーション科(3年制昼間I部)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分 曜日・時限	年間 金曜2限
教員の略歴	1981年よりプロモーターとしてジャパンレコード、ホットスタッフ・プロモーションにてビテカートVなどのアーティストを手掛ける。						
授業の学習内容	作る側 スタッフ共通のエンターテインメントの基盤にある著作権＝アーティストの権利を理解してもらう。また日々変化している状況を踏まえ、ネット中心のビビッドな話題を通して、著作権の理解を深める。各専攻によって立場の違いはあるが、どのように著作権の知識が役立つかを具体的に示す。						
到達目標	アーティスト(作曲、ダンス、アクター、プロミ)には、自分達の権利と制作していく上での注意事項を理解してもらう。コンスタには、自分の関わる仕事の根本にある出演者側の権利を理解してもらう。ネットのリテラシーを高める。(使う側の注意事項、ネットでの権利の理解) また音楽関係のトピックを正しく理解できるように解説していく。最終的に自分たちが、アーティストとして契約する際の知識を身につけてもらう。						
評価方法及び基準	① 試験 50% ② 用語プリント レポート 50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	演習	なぜ著作権の知識が必要かを学ぶ	教科書第1章を予習・復習する
2	/	演習	知的財産権について学ぶ	教科書第2章を予習・復習する
3	/	演習	アーティストの創作活動 DVDについて学ぶ	教科書第3章を予習・復習する
4	/	演習	音楽の置かれている現状を学ぶ	教科書第4章を予習・復習する
5	/	演習	著作権法を学ぶ	教科書第5章を予習・復習する
6	/	演習	著作物と著作権の関係について学ぶ	教科書第6章を予習・復習する
7	/	演習	著作隣接権について学ぶ	教科書第7章を予習・復習する
8	/	演習	著作権条約を学ぶ	教科書第8章を予習・復習する
9	/	演習	WIPO新条約条約を学ぶ	教科書第9章を予習・復習する
10	/	演習	著作権管理について学ぶ	教科書第10章を予習・復習する
11	/	演習	音楽著作権協会を学ぶ①	教科書第11章を予習・復習する
12	/	演習	音楽著作権協会を学ぶ②	教科書第12章を予習・復習する
13	/	演習	音楽著作物の利用形態 ポカロPの新しい著作権について学ぶ	教科書第13章を予習・復習する
14	/	演習	音楽著作物の利用形態 ネットでの著作権について学ぶ	教科書第14章を予習・復習する
15	/	試験	まとめ 試験	
16	/	演習	音楽著作物の利用形態 様々な音源を聴く	教科書第15章を予習・復習する
17	/	演習	著作権侵害について学ぶ	教科書第16章を予習・復習する
18	/	演習	音楽出版社について学ぶ	教科書第17章を予習・復習する
19	/	演習	著作隣接権の制限について学ぶ	教科書第18章を予習・復習する
20	/	演習	著作権・著作隣接権について学ぶ	教科書第19章を予習・復習する
21	/	演習	音楽著作物の委嘱について学ぶ	教科書第20章を予習・復習する
22	/	演習	学生と音楽著作権について学ぶ	教科書第21章を予習・復習する
23	/	演習	音楽著作権判例について学ぶ	教科書第22章を予習・復習する
24	/	演習	音楽業界の新しい動きについて学ぶ	教科書全体を読み返し復習する
25	/	演習	アーティストとスタッフについて学ぶ	教科書全体を読み返し復習する
26	/	演習	ワークショップ・レポート作成	オリコンランキングTOP50からアーティスト・楽曲を選択しレポートする
27	/	演習	ワークショップ・レポート作成	オリコンランキングTOP50からアーティスト・楽曲を選択しレポートする
28	/	演習	ワークショップ・レポート作成	オリコンランキングTOP50からアーティスト・楽曲を選択しレポートする
29	/	演習	ワークショップ・レポート作成	オリコンランキングTOP50からアーティスト・楽曲を選択しレポートする
30	/	試験	まとめ 試験	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 音楽著作権、ORIGINAL CONFIDENCE				

科目名 (英)	業界知識	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	佐藤晃彦
	(Entertainment industry Knowledge)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分 曜日・時限	年間 火曜1限
学科・コース	音楽コミュニケーション科(3年制昼間I部)						
教員の略歴	1978年より音響やローディーなどの仕事に関わり、舞台監督としてREBECCA、THE BOOM、Char、中森明菜等のコンサートを制作する。						
授業の学習内容	コンサート現場での専門用語、しきたり、ルールなどを学び、即戦力として通用する知識を養う。						
到達目標	コンサート運営に必要な段取りを知り、タイムテーブル、舞台図面の内容を把握出来るようにする。						
評価方法と基準	定期試験 70%、授業内評価 30% 専門用語を使いこなせる						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	／	演習	授業の概要と進行を解説する	授業及び実習に必要な準備物を確認する
2	／	演習	音楽業界で働く人の意識について学ぶ	事例・歴史を参考に日本の音楽業界の変遷について考える
3	／	演習	コンサートをつくるための様々な仕事を学ぶ	授業で学んだ職種を復習し、自分の興味のある仕事を見出す
4	／	演習	コンサートスタッフの一日を学ぶ	本番の現場をはじめ、準備段階での業務などを復習する
5	／	演習	コンサート会場の種類を学ぶ	授業で学んだ会場を復習し、身近にある会場を見つけてみる
6	／	演習	コンサート制作で作成される書類を学ぶ	参考書類を参考にテンプレートを作成する
7	／	演習	舞台平面図を理解する①	縮尺や用語を復習し、覚える
8	／	演習	舞台平面図を理解する②	バトンや幕の役割を覚える
9	／	演習	野外コンサートの平面図を学ぶ	仮説ステージの基本的なつくりを理解する
10	／	演習	タイムテーブルを理解する	タイムテーブルを参考に各業種の仕事の流れを復習する
11	／	演習	舞台平面図とタイムテーブルを関連づける	時間ごとにシーンが変わるという概念を理解し、軽微の時間配分を考える
12	／	演習	タイムテーブルの作成を学ぶ	全数を参考に1日完結のイベントをシミュレーションしてみる
13	／	試験	筆記試験による理解度テスト	
14	／	演習	舞台機構実習を行う③野外フェス	タイムテーブル・平面図を理解し、転換の仕事体験する
15	／	演習	舞台機構実習を行う③野外フェス	タイムテーブル・平面図を理解し、転換の仕事体験する
16	／	演習	舞台機構実習を行う③野外フェス	タイムテーブル・平面図を理解し、転換の仕事体験する
17	／	演習	イベント参加者のチョイスの基準を学ぶ①	アーティスト、料金、会場、演出、グッズなど実例を参考に復習する
18	／	演習	イベント参加者のチョイスの基準を学ぶ②	アーティスト、料金、会場、演出、グッズなど実例を参考に復習する
19	／	演習	イベント実施にあたっての準備を学ぶ	前週までを参考に集客の基本を考える
20	／	演習	イベント実施までの制作作業について学ぶ	演者、会場、プロモーションなど全ての要素について考える
21	／	演習	イベント運営時の作業について学ぶ	制作というセクションについて必要な要素を考える
22	／	演習	イベント企画について学ぶ①	企画書をゼロから作成し、様々な視点からシミュレーションする
23	／	演習	イベント企画について学ぶ②	企画書をゼロから作成し、様々な視点からシミュレーションする
24	／	演習	イベント企画について学ぶ③	企画書をゼロから作成し、様々な視点からシミュレーションする
25	／	演習	日常のトレーニングについて①	スキルを身に着けるための考え方と具体的な方法について考える
26	／	演習	日常のトレーニングについて②	スキルを身に着けるための考え方と具体的な方法について考える
27	／	試験	筆記試験による理解度テスト	
28	／	演習	舞台機構実習を行う①学校ホール	卒業進級展を運営し、1年間の総括を行う
29	／	演習	舞台機構実習を行う②ライブハウス	卒業進級展を運営し、2年間の総括を行う
30	／	演習	舞台機構実習を行う③ライブハウス	卒業進級展を運営し、3年間の総括を行う
準備学習 時間外学習		授業で学んだものを実習に活用できるように整理する		
【使用教科書・教材・参考書】 都度配布(コンサート制作資料)				

科目名 (英)	ビジネスマナー (Business Etiquette)	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	千葉秀
学科・コース	音楽コミュニケーション科(3年制昼間I部)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分 曜日・時限	年間 火曜3限
教員の略歴	1989年より流行天国工房を設立し、プロデューサーとして音楽を中心としたTV番組制作やCD制作、コンサート制作のマネジメントを歴任						
授業の学習内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽業界にとどまらず組織を円滑に運営するためマネジメントは重要でその基礎となる部分を体験していく</li> <li>グループ、組織での合同実習などの際に「見学」から一歩踏み込んで自分の場を作る事を目指し、疑問→考え→行動まで移す。</li> <li>リーダーとマネジメントの違いに気付いてもらい、相手の立場や個性も尊重し合いながらミッションを達成するという最大目標を投げ出さず、到達させたい。</li> <li>わからない。失敗する。を前提としなるべく多くの答えを導き体験させたい。</li> </ul>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>正確め切りまでのアップ率強化。対外的な見せ方、メモ強化。即行動。返事のレスポンス。疑問を疑問のまままで終わらせないなどを注意深く、根気強く、わかりやすく、ループしながら教えていく。</li> </ul>						
評価方法と基準	1) 定期テスト60% 2) 授業内評価40% 都度あるレポート、課題などへの意欲なども重視						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	／	演習	各自自己紹介と1年間の流れを説明する	授業及び実習に必要な準備物を確認する
2	／	演習	グループワークでコミュニケーションの糸口を探る。	人前で発表する事を練習する
3	／	演習	マネジメントとマネージャーについて学ぶ	これまで持っていた概念と本来の意味のギャップを埋める
4	／	演習	合同授業(現場マネジメント)現場という空間の中で自分が信頼しなければいけない事を学ぶ	行動に移さなければならないことをシーンごとに確認する
5	／	演習	合同授業(学園祭反響会)学園祭の計画内容と、実際の行動での気づきを発表する。	正しい自己評価ができてくるか検証する
6	／	演習	制作費(予算)の算出を学ぶ	事業計画をするにあたって必要な制作費の算出項目とその算出方法を身に付ける
7	／	演習	現場マネジメント(スケジュール管理)ミュージカル実習を運動する	本番までのスケジュール管理をしていく、全体スケジュール表の制作とクラウドアップする
8	／	演習	多様化していくプロモーションアイテムについて学ぶ	媒体の種類・方法について調べてみる
9	／	演習	WEBプロモーションの仕組みや印刷に関する基礎知識を学ぶ	媒体の種類・方法について調べてみる
10	／	演習	現場マネジメント(情報管理)ミュージカル実習を運動する	計画通りに進んでいるか、新規情報があるかなどをチェックレクワドアップ・共有する
11	／	演習	現場マネジメント(プロモーション運営計画)ミュージカル実習(決起集会)を運動する	伝えたいテーマ、目標、達成値などを明示し、その意向を自分でも十分分節に発信できるようにする
12	／	演習	現場マネジメント(制作計画)ミュージカル実習と運動する	制作費やアーティスト報酬、著作権などのコストを把握し、制作費のコントロールを行う
13	／	演習	現場マネジメント・アーティストケアを学ぶ	ミュージシャンのパフォーマンスが高くなるために必要な環境をどう作っていくか考える
14	／	演習	現場マネジメント・アーティストケアを実践する	干渉指導やリハーサル時間外でのようにコミュニケーションを構築していくか実践する
15	／	演習	現場マネジメント・アーティストケアを実践する	キャストイングの決定した段階で担当マネージャーを配置する
16	／	演習	現場マネジメント・アーティストケアを実践する	ホールリハーサル実習、タイムテーブルに詳しい月滑に運行できるようにサポートする
17	／	演習	ミュージカル本番	
18	／	演習	人を使う、人に教えることについて学ぶ	各セクション毎に練習とミッション遂行。
19	／	演習	業界対策に関する講義を行う	学んだ様々な対策を自身の業種や進路になぞらえて考える
20	／	演習	イベント運営を主催者目線で考える	コンセプトワークとマネジメントについて話し合う
21	／	演習	イベント企画を多方向から考える1	題材を基に各自のアイデアや事例を出し合いまとめる
22	／	演習	イベント企画を多方向から考える2	題材を基に各自のアイデアや事例を出し合いまとめる
23	／	演習	組織としてのイベント企画を行う1	卒業進級展を題材に運営計画を打ち合わせる
24	／	演習	組織としてのイベント企画を行う2	卒業進級展を題材にタイムテーブル・企画書を作成する
25	／	演習	組織としてのイベント企画を行う3	卒業進級展を題材にタイムテーブル・企画書を作成する
26	／	演習	組織としてのイベント企画を行う4	卒業進級展を題材に出演者とのミーティングを行う
27	／	演習	組織としてのイベント制作を行う1	卒業進級展を題材に出演者とのミーティングを行う
28	／	演習	組織としてのイベント制作を行う2	卒業進級展を題材にリハーサル計画・プロモーションプランを完成する
29	／	演習	組織としてのイベント制作を行う3	卒業進級展を題材にリハーサル運営とプロモーションを行う
30	／	試験	卒業進級展本番	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名 (英)	音楽理論 ( Music thory )	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	今藤雅博
学科・コース	音楽コミュニケーション科(3年制昼間I部)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4	開講区分 曜日・時限	年間 月曜2限
教員の略歴	2007年よりミュージシャンとしてアーティストの演奏サポート、セッション、作編曲で活動。						
授業の学習内容	五線譜の基本的なルール 音程 調号 コード導入						
到達目標	音程を正確に理解できる 調号を覚える						
評価方法と基準	1) 定期テスト60% 2) 授業内評価40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	オリエンテーション 楽譜の仕組みを学ぶ	iPadテキストを読み込む
2	/	講義	半音と全音 メイジャースケールを学ぶ	半音と全音について鍵盤を用いて確認する
3	/	講義	音程を学ぶ① 変化記号	長短音程の学習、変化記号の確認する
4	/	講義	音程を学ぶ②	テキストの音程について読んでおく
5	/	講義	音程を学ぶ③	完全音程の学習する
6	/	講義	音程を学ぶ④	音程のまとめをする
7	/	講義	調号を学ぶ①	#系の覚え方を学習する
8	/	講義	調号を学ぶ②	b系の覚え方を学習する
9	/	講義	調号を学ぶ③	マイナーキーでも分かるようにする
10	/	講義	調号を学ぶ④	調号のまとめを復習する
11	/	試験	テスト	これまでの内容を復習
12	/	講義	コードを学ぶ	トライアドの構成を理解する
13	/	講義	コードトーンを学ぶ	トライアドのコードトーンを理解する
14	/	講義	7thコードを学ぶ①	M7th 7thの違い、4音和音の導入をする
15	/	講義	7thコードを学ぶ②	使用頻度の高い種類から学習する
16	/	講義	7thコードを学ぶ③	7thコードのコードトーンを理解する
17	/	講義	ダイアトニックコードを学ぶ①	音階との関連を意識する
18	/	講義	ダイアトニックコードを学ぶ②	各コードの役割を覚える
19	/	講義	ダイアトニックコードを学ぶ③	各コードの役割を覚える
20	/	講義	マイナーダイアトニックコードを学ぶ①	メイジャーダイアトニックの復習も行う
21	/	講義	マイナーダイアトニックコードを学ぶ②	マイナーダイアトニックコードの学習する
22	/	講義	マイナーダイアトニックコードを学ぶ③	Hm Mm のコード機能を復習する
23	/	試験	テスト	これまでの内容を復習する
24	/	講義	セカンダリードミナントコードを学ぶ①	ノンダイアトニックコードを学習する
25	/	講義	セカンダリードミナントコードを学ぶ②	セカンダリードミナントの解決について復習する
26	/	講義	セカンダリードミナントコードを学ぶ③	マイナーキーで考える
27	/	講義	代理ドミナントコードを学ぶ	代理ドミナントの考え方を復習する
28	/	講義	テンションノートを学ぶ①	メイジャーキーで学習する
29	/	講義	テンションノートを学ぶ②	マイナーキーで学習する
30	/	試験	テスト	これまでの内容を復習する
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 iPad教材、ワークブック、五線紙、筆記用具				

科目名 (英)	音楽理論 ( Music thory )	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	今藤雅博
学科・コース	音楽コミュニケーション科(3年制昼間I部)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4	開講区分	年間 月曜1限
教員の略歴	2007年よりミュージシャンとしてアーティストの演奏サポート、セッション、作編曲で活動。						
授業の学習内 容	マイナーダイアトニックコード ノンダイアトニックなドミナントコード テンションノート						
到達目標	マイナーダイアトニックコードの仕組みと、コード機能を理解する。 ノンダイアトニックなドミナントコードを理解する。 各コードで使用可能なテンションノートを理解する。						
評価方法と基 準	1) 定期テスト60% 2) 授業内評価40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	ドミナント系コードのテンションノートを学ぶ①	テンションの組み合わせについて復習する
2	/	講義	ドミナント系コードのテンションノートを学ぶ②	テンションの組み合わせについて復習する
3	/	講義	借用されたサブドミナントマイナーコードを学ぶ	借用された場合のテンションの違いを復習する
4	/	講義	変則的なサブドミナントコードを学ぶ	起源と使用法、テンションノートを復習する
5	/	講義	ディミニッシュコードを学ぶ	使用法とテンションノートを復習する
6	/	講義	アヴェイラブルノートスケールを学ぶ 導入	テンションノートとの関係性についてを復習する
7	/	講義	アヴェイラブルノートスケールを学ぶ①	ドミナント以外のコードを扱って復習する
8	/	講義	アヴェイラブルノートスケールを学ぶ②	ドミナント系コードを扱って復習する
9	/	試験	テスト	これまでの内容を復習する
10	/	講義	和声学の基礎知識を学ぶ	配分、禁則事項についてを復習する
11	/	講義	3和音基本形を学ぶ①	バス課題を復習する
12	/	講義	3和音基本形を学ぶ②	ソプラノ課題を復習する
13	/	講義	3和音 転回形を学ぶ①	バス課題を復習する
14	/	講義	3和音 転回形を学ぶ②	ソプラノ課題を復習する
15	/	講義	転調と反復進行を学ぶ①	バス課題を復習する
16	/	講義	転調と反復進行を学ぶ②	バス課題を復習する
17	/	講義	転調と反復進行を学ぶ③	ソプラノ課題を復習する
18	/	講義	転調と反復進行を学ぶ④	ソプラノ課題を復習する
19	/	講義	属七和音を学ぶ①	バス課題を復習する
20	/	講義	属七和音を学ぶ②	バス課題を復習する
21	/	講義	属七和音を学ぶ③	バス課題を復習する
22	/	講義	属七和音を学ぶ①	ソプラノ課題を復習する
23	/	講義	属七和音を学ぶ②	ソプラノ課題を復習する
24	/	講義	属七和音を学ぶ③	ソプラノ課題を復習する
25	/	講義	副七和音を学ぶ①	バス課題を復習する
26	/	講義	副七和音を学ぶ②	ソプラノ課題を復習する
27	/	講義	属九和音を学ぶ①	バス課題を復習する
28	/	講義	属九和音を学ぶ②	バス課題を復習する
29	/	講義	属九和音を学ぶ②	ソプラノ課題を復習する
30	/	試験	テスト	これまでの内容を復習
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 iPad教材、ワークブック、五線紙、筆記用具				



科目名 (英)	イヤートレーニング (Ear Training)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	今藤雅博
学科・コース	音楽コミュニケーション科(3年制昼間I部)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分 曜日・時限	年間 月曜3限
教員の略歴	2007年よりミュージシャンとしてアーティストの演奏サポート、セッション、作編曲で活動。						
授業の学習内容	リズム打ち 視唱 聴音						
到達目標	音程、リズム、メロディーを声に出して読み取れる ハ長調の旋律聴音ができる						
評価方法及び基準	1) 定期テスト60% 2) 授業内評価40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	演習	オリエンテーション～楽譜の読み書きを聴き取り、譜面におこす	楽譜の読み方、書き方を復習する
2	/	演習	3度までの音程、四分音符中心を聴き取り、譜面におこす	2度音程との違いを意識し復習する
3	/	演習	3度までの音程、全音符、二分音符を聴き取り、譜面におこす	休符に注意し復習する
4	/	演習	3度までの音程で聴音を聴き取り、譜面におこす	休符に注意しながら音程をとり復習する
5	/	演習	4度までの音程で聴音 八分音符を聴き取り、譜面におこす	4度音程を感じ取り復習する
6	/	演習	4度5度までの音程で聴音を聴き取り、譜面におこす	5度音程を感じ取り復習する 八分音符導入
7	/	演習	5度6度までの音程で聴音付点リズムを聴き取り、譜面におこす	6度音程を感じ取り復習する 八分休符
8	/	演習	6度7度までの音程で聴音を聴き取り、譜面におこす	7度音程を感じ取り復習する
9	/	演習	1オクターヴまでの音程で聴音を聴き取り、譜面におこす	オクターヴ跳躍を復習する 付点リズム導入
10	/	演習	1オクターヴまでの音程で聴音を聴き取り、譜面におこす	苦手の跳躍があればよく歌う事
11	/	演習	2オクターヴまでの音程で聴音を聴き取り、譜面におこす	苦手の跳躍があればよく歌う事
12	/	演習	音程の聞き取り復習を行う	これまでの内容を整理を復習する
13	/	試験	テスト	これまでの総復習をする
14	/	演習	単旋律聴音を聴き取り、譜面におこす	音程、休符を正しく把握するし復習する
15	/	演習	単旋律聴音を聴き取り、譜面におこす	付点リズムの休符を復習する
16	/	演習	単旋律聴音を聴き取り、譜面におこす	音が切れるのかか伸びるのか意識し復習する
17	/	演習	単旋律聴音を聴き取り、譜面におこす	ハ長調以外の長調を復習する
18	/	演習	単旋律聴音を聴き取り、譜面におこす	3音符を復習する
19	/	演習	単旋律聴音を聴き取り、譜面におこす	16分音符を復習する
20	/	演習	単旋律聴音を聴き取り、譜面におこす	2度音程との違いを意識し復習する
21	/	演習	短調を聴き取り、譜面におこす	3種類の短調を復習する
22	/	演習	短調による単旋律聴音を聴き取り、譜面におこす	変化する音を覚える
23	/	演習	短調による単旋律聴音を聴き取り、譜面におこす	6,7番目の音に注意を復習する
24	/	演習	変化音を聴き取り、譜面におこす	変化音のとらえかたを復習する
25	/	演習	変化音を含む単旋律聴音を聴き取り、譜面におこす	調性外の音を感じ取りを復習する
26	/	演習	変化音を含む単旋律聴音を聴き取り、譜面におこす	半音変化を意識し復習する
27	/	演習	変化音を含む単旋律聴音を聴き取り、譜面におこす	経過的变化と刺繍的变化を復習する
28	/	演習	変化音を含む単旋律聴音を聴き取り、譜面におこす	これまでの内容を整理を復習する
29	/	演習	1年間の振り返りを行う	これまでの内容を整理を復習する
30	/	試験	テスト	これまでの総復習をする
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 iPad教材、プリント配布、五線紙、筆記用具				

科目名 (英)	イヤートレーニング (Ear Training)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	今藤雅博
学科・コース	音楽コミュニケーション科(3年制昼間I部)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分 曜日・時限	年間 火曜2限
教員の略歴	2007年よりミュージシャンとしてアーティストの演奏サポート、セッション、作編曲で活動。						
授業の学習内容	リズム打ち 視唱 聴音						
到達目標	音程、リズム、メロディーを声に出して読み取れる ハ長調の旋律聴音ができる						
評価方法及び基準	1) 定期テスト60% 2) 授業内評価40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	演習	オリエンテーション～2年次の概要を説明する	1年時の復習
2	/	演習	2声課題を聴き取り、譜面におこす	ト音記号を復習する
3	/	演習	3声課題を聴き取り、譜面におこす	ヘ音記号を復習する
4	/	演習	聴き取り方について学ぶ	短い課題を復習する
5	/	演習	効果音について学ぶ	教科書10Pを復習
6	/	演習	聴いたリズムを単純に再現する	教科書12Pを復習
7	/	演習	聴いたリズムをビートを感じながら再現する	教科書13Pを復習
8	/	演習	聴いたリズムをビートとバーを感じながら再現する	教科書14Pを復習
9	/	演習	聴いたリズムをビートとバーを感じながら再現する	教科書14P～21Pを復習
10	/	演習	聴いた音をスケッチするトレーニング/音を図面に表す	教科書22P～23Pを復習
11	/	演習	聴いた音をスケッチするトレーニング/現代音楽を図面に表す	教科書24P～27Pを復習
12	/	演習	前期まとめ	変化音、2声旋律の聴き取り方等
13	/	試験	テスト	これまでの総復習をする
14	/	演習	聴いたメロディー単純に再現する	教科書28Pを復習
15	/	演習	聴いたメロディーをビートを感じながら再現する	教科書29P～31Pを復習
16	/	演習	聴いたメロディーをビートとバーを感じながら再現する	教科書32P～38Pを復習
17	/	演習	単旋律聴音と2声聴音を聴き取り、譜面におこす	苦手の跳躍があればよく歌う事
18	/	演習	単旋律聴音と2声聴音を聴き取り、譜面におこす	移勢リズムに注意する
19	/	演習	単旋律聴音と2声聴音を聴き取り、譜面におこす	移勢リズムに注意する
20	/	演習	単旋律聴音と2声聴音を聴き取り、譜面におこす	大きい跳躍に注意する
21	/	演習	単旋律聴音と2声聴音を聴き取り、譜面におこす	大きい跳躍に注意する
22	/	演習	コードを聴き取り、譜面におこす	Triadでコードタイプの確認
23	/	演習	3和音を聴き取り、譜面におこす	aug dimの響きに慣れること
24	/	演習	4和音を聴き取り、譜面におこす	響きの特徴を自分なりに区別すること
25	/	演習	4和音を聴き取り、譜面におこす	苦手のコードタイプがあれば復習
26	/	演習	指揮法のトレーニングを行う	教科書93P～98Pを復習
27	/	演習	様々な表紙のリズムをトレーニングする	教科書99P～101Pを復習
28	/	演習	様々な庁のメロディーをトレーニングする	教科書102P～110Pを復習
29	/	演習	1年間の振り返りを行う	これまでの内容を整理を復習する
30	/	試験	テスト	これまでの総復習をする
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 iPad教材、プリント配布、五線紙、筆記用具				

科目名 (英)	作詞 (Lyrics technique)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	堀越園江
学科・コース	音楽コミュニケーション科(3年制昼間I部)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4	開講区分	年間 金曜3限
教員の略歴	2001年より作詞家として小林幸子、天童よしみ、田川寿美などに作詞提供。(社)日本音楽著作権協会会員。						
授業の学習内容	詞先での作詞。曲先での作詞。						
到達目標	オリジナル作品の制作。(最低10~15作品)						
評価方法及び基準	タイトル・テーマ・構成・字脚・内容が、プロとして即戦力になるレベルであること。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	授業の概要説明を行う	ノートの準備・好きな作品のCD・歌詞を用意
2	/	講義	様々な作品を視聴する	2作品を選択して感想をまとめる
3	/	講義	洋楽と邦楽の作詞の違いについて学ぶ	2作品を選択して感想をまとめる
4	/	講義	言葉のチョイスを考える	ノートに課題に沿った言葉を書き溜める
5	/	講義	ロックの作詞について学ぶ	ノートに課題に沿った言葉を書き溜める
6	/	講義	ポップスの作詞について学ぶ	ノートに課題に沿った言葉を書き溜める
7	/	講義	時代に合った言葉を見つける	ノートに課題に沿った言葉を書き溜める
8	/	講義	タイトルと詞の関係性を考える	課題に沿った作品を3作品探してみる
9	/	講義	感情表現について考える	喜怒哀楽のそれぞれの言葉を書き溜める
10	/	講義	韻の踏み方を学ぶ	課題に沿って詞を組み立ててみる
11	/	講義	言葉の繰り返しについて学ぶ	例題の音源を使用して詞を書いてみる
12	/	講義	模擬課題を制作する①	次週までに2作品を制作する
13	/	講義	模擬課題を制作する②	次週までに2作品を制作する
14	/	講義	模擬課題を制作する③	次週までに2作品を制作する
15	/	試験	前期テストを行う	
16	/	講義	これまでの基礎をおさらいする	ノートの提出
17	/	講義	テーマの選び方を考える	授業内で設定したテーマに沿って作品制作
18	/	講義	詞先課題を制作する①	課題のテーマに沿って2作品制作
19	/	講義	詞先課題を制作する②	課題のテーマに沿って2作品制作
20	/	講義	ドラマ作りを考える	課題のテーマに沿って作品制作
21	/	講義	詞先自由作品を制作する	課題のテーマに沿って2作品制作
22	/	講義	曲先のテクニックを学ぶ	課題のテーマに沿って作品制作
23	/	講義	曲先課題を制作する①	課題のテーマに沿って2作品制作
24	/	講義	曲先課題を制作する②	課題のテーマに沿って2作品制作
25	/	講義	オリジナリティのある詞を学ぶ	2作品を選択して感想をまとめる
26	/	講義	コンペに勝つ作品を学ぶ	課題のテーマに沿って作品制作
27	/	講義	企業課題を制作する①	次週までに2作品を制作する
28	/	講義	企業課題を制作する②	次週までに2作品を制作する
29	/	講義	企業課題を制作する③	次週までに2作品を制作する
30	/	試験	後期テストを行う	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	コンピューターミュージック I (Computer Music I)	必修 選択	必修 選択	年次	1年	担当教員	大谷靖夫
学科・コース	音楽コミュニケーション科(3年制昼間I部)	授業 形態	実習	総時間 (単位)	120 4	開講区分	年間 曜日・時限 木曜1・2限
教員の略歴	2000年より作曲家としてCavexに所属し、AKB48、乃木坂46、倅田来未、ELT、玉置成実など多数のアーティストに楽曲を提供。						
授業の学習内容	コンピューターを使用し、MIDIデータおよびAudioデータの作成のノウハウを習得する。						
到達目標	Cubaseを使いMIDIおよびAudioデータを作成できるようになる。 学習した内容で簡易なオリジナル楽曲を制作できるようになる。						
評価方法と基準	授業内評価40% 定期試験 30% データ提出 30%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	実習	外部・内部・機材の説明を行う	説明内容を復習する
2	/	実習	MIDIデータを作成する①	ドラムのプログラミングを行う
3	/	実習	MIDIデータを作成する②	ベースのプログラミングを行う
4	/	実習	MIDIデータを作成する③	ピアノのプログラミングを行う
5	/	実習	MIDIデータを作成する④	ギタープログラミングを行う
6	/	実習	MIDIデータ・Audioデータを作成する①	8ビットROCKのプログラミングを行う
7	/	実習	MIDIデータ・Audioデータを作成する②	16ビットROCKのプログラミングを行う
8	/	実習	MIDIデータ・Audioデータを作成する③	8ビットPOPのプログラミングを行う
9	/	実習	MIDIデータ・Audioデータを作成する④	16ビットPOPのプログラミングを行う
10	/	実習	MIDIデータ・Audioデータを作成する⑤	3連符、6連符のプログラミングを行う
11	/	実習	ワークショップ・課題を提示	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
12	/	実習	ワークショップ・課題作成①	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
13	/	実習	ワークショップ・課題作成②	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
14	/	実習	ワークショップ・課題提出	MIDIシークエンスソフトを使用し、楽曲制作にDTMシステムを積極的に活用できる技術を習得する。
15	/	試験		
16	/	実習	ワークショップ・課題を提示	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
17	/	実習	ワークショップ・課題作成①	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
18	/	実習	ワークショップ・課題作成②	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
19	/	実習	ワークショップ・課題提出	MIDIシークエンスソフトを使用し、楽曲制作にDTMシステムを積極的に活用できる技術を習得する。
20	/	実習	ワークショップ・課題を提示	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
21	/	実習	ワークショップ・課題作成①	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
22	/	実習	ワークショップ・課題作成②	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
23	/	実習	ワークショップ・課題作成③	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
24	/	実習	ワークショップ・課題提出	MIDIシークエンスソフトを使用し、楽曲制作にDTMシステムを積極的に活用できる技術を習得する。
25	/	実習	ワークショップ・課題を提示	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
26	/	実習	ワークショップ・課題作成①	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
27	/	実習	ワークショップ・課題作成②	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
28	/	実習	ワークショップ・課題作成③	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
29	/	実習	ワークショップ・課題提出	MIDIシークエンスソフトを使用し、楽曲制作にDTMシステムを積極的に活用できる技術を習得する。
30		試験		
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	コンピューターミュージックⅡ (Computer MusicⅡ)	必修 選択	必修 選択	年次	2年	担当教員	大谷靖夫
学科・コース	音楽コミュニケーション科(3年制昼間Ⅰ部)	授業 形態	実習	総時間 (単位)	120 4	開講区分	年間 曜日・時限 金曜1・2限
教員の略歴	2000年より作曲家としてavexに所属し、AKB48、乃木坂46、倅田来未、ELT、玉置成実など多数のアーティストに楽曲を提供。						
授業の学習内容	コンピューターを使用し、MIDIデータおよびAudioデータの作成のノウハウを習得する。						
到達目標	Cubaseを使いMIDIおよびAudioデータを作成できるようになる。 制作する作品が業界基準のアレンジ、音質に仕上げられるレベルを目指す。						
評価方法と基準	授業内評価40% 定期試験 30% データ提出 30%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	実習	外部・内部・機材の説明	説明内容の理解・復習
2	/	実習	MIDIデータの作成	ストリングスのプログラミング
3	/	実習	MIDIデータの作成	オルガンのプログラミング
4	/	実習	MIDIデータの作成	プラスのプログラミング
5	/	実習	MIDIデータの作成	パーカッションのプログラミング
6	/	実習	MIDIデータ・Audioデータの作成	EDM①
7	/	実習	MIDIデータ・Audioデータの作成	EDM②
8	/	実習	MIDIデータ・Audioデータの作成	JAZZ①
9	/	実習	MIDIデータ・Audioデータの作成	JAZZ②
10	/	実習	MIDIデータ・Audioデータの作成	JAZZ③
11	/	実習	ワークショップ・課題を提示	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
12	/	実習	ワークショップ・課題作成①	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
13	/	実習	ワークショップ・課題作成②	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
14	/	実習	ワークショップ・課題提出	MIDIシークエンスソフトを使用し、楽曲制作にDTMシステムを積極的に活用できる技術を習得する。
15	/	試験		
16	/	実習	ワークショップ・課題を提示	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
17	/	実習	ワークショップ・課題作成①	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
18	/	実習	ワークショップ・課題作成②	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
19	/	実習	ワークショップ・課題提出	MIDIシークエンスソフトを使用し、楽曲制作にDTMシステムを積極的に活用できる技術を習得する。
20	/	実習	ワークショップ・課題を提示	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
21	/	実習	ワークショップ・課題作成①	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
22	/	実習	ワークショップ・課題作成②	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
23	/	実習	ワークショップ・課題作成③	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
24	/	実習	ワークショップ・課題提出	MIDIシークエンスソフトを使用し、楽曲制作にDTMシステムを積極的に活用できる技術を習得する。
25	/	実習	ワークショップ・課題を提示	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
26	/	実習	ワークショップ・課題作成①	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
27	/	実習	ワークショップ・課題作成②	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
28	/	実習	ワークショップ・課題作成③	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
29	/	実習	ワークショップ・課題提出	MIDIシークエンスソフトを使用し、楽曲制作にDTMシステムを積極的に活用できる技術を習得する。
30	/	試験		
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	コンピューターミュージックⅢ (Computer MusicⅢ)		必修 選択	必修 選択	年次	3年	担当教員	大谷靖夫
	学科・コース	音楽コミュニケーション科(3年制昼間Ⅰ部)	授業 形態	実習	総時間 (単位)	120 4	開講区分	年間 曜日・時限 土曜1・2限
教員の略歴	2000年より作曲家としてavexに所属し、AKB48、乃木坂46、倅田来未、ELT、玉置成実など多数のアーティストに楽曲を提供。							
授業の学習内容	コンピューターを使用し、MIDIデータおよびAudioデータの作成のノウハウを習得する。							
到達目標	Cubaseを使いMIDIおよびAudioデータを作成できるようになる。 卒業制作として年間を通して各自が40分以上のCDアルバムを制作し、卒業進級展にてプレゼンテーションを行う。							
評価方法及び基準	授業内評価40% 定期試験 30% データ提出 30%							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	実習	外部・内部・機材の説明	説明内容の理解・復習
2	/	実習	MIDIデータの作成	オーケストラのプログラミング①
3	/	実習	MIDIデータの作成	オーケストラのプログラミング②
4	/	実習	MIDIデータの作成	オーケストラのプログラミング③
5	/	実習	MIDIデータの作成	オーケストラのプログラミング④
6	/	実習	MIDIデータ・Audioデータの作成	オリジナル作品制作①
7	/	実習	MIDIデータ・Audioデータの作成	オリジナル作品制作②
8	/	実習	MIDIデータ・Audioデータの作成	オリジナル作品制作③
9	/	実習	MIDIデータ・Audioデータの作成	オリジナル作品制作④
10	/	実習	MIDIデータ・Audioデータの作成	オリジナル作品制作⑤
11	/	実習	ワークショップ・課題を提示	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
12	/	実習	ワークショップ・課題作成①	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
13	/	実習	ワークショップ・課題作成②	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
14	/	実習	ワークショップ・課題提出	MIDIシークエンスソフトを使用し、楽曲制作にDTMシステムを積極的に活用できる技術を習得する。
15	/	試験		
16	/	実習	ワークショップ・課題を提示	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
17	/	実習	ワークショップ・課題作成①	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
18	/	実習	ワークショップ・課題作成②	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
19	/	実習	ワークショップ・課題提出	MIDIシークエンスソフトを使用し、楽曲制作にDTMシステムを積極的に活用できる技術を習得する。
20	/	実習	ワークショップ・課題を提示	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
21	/	実習	ワークショップ・課題作成①	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
22	/	実習	ワークショップ・課題作成②	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
23	/	実習	ワークショップ・課題作成③	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
24	/	実習	ワークショップ・課題提出	MIDIシークエンスソフトを使用し、楽曲制作にDTMシステムを積極的に活用できる技術を習得する。
25	/	実習	ワークショップ・課題を提示	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
26	/	実習	ワークショップ・課題作成①	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
27	/	実習	ワークショップ・課題作成②	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
28	/	実習	ワークショップ・課題作成③	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
29	/	実習	ワークショップ・課題提出	MIDIシークエンスソフトを使用し、楽曲制作にDTMシステムを積極的に活用できる技術を習得する。
30		試験		
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	作曲・編曲 I (Composition / Arrangement I)	必修 選択	必修 選択	年次	1年	担当教員	稲垣達也
学科・コース	音楽コミュニケーション科(3年制昼間I部)	授業 形態	実習	総時間 (単位)	120 4	開講区分	年間 水曜1・2限
教員の略歴	1982年よりピアニスト・作曲家として活動。Jazz Popsをベースにジャンルフリーに作曲演奏活動し、CDもリリース。2004年にはNHK番組の音楽も担当。						
授業の学習内容	①ジャンル別MIDIデータファイルをCubaseにドラッグ&ドロップし分析してメロディーを付ける(作曲する) ②コード進行パターン>コード先行でメロを考えよう>メロディーの音の選び方(コード内外) 始まるタイミング(強起弱起) ③コードの機能(T, SD, Dとその代理コード、セカンダリドミナント)>コード進行を作る>リハーモナイズ ④メロディー先行で作曲>コードをつける ⑤①~④を完全なWAVデータとして仕上げるためDAWソフト(Cubase)で楽器別の打ち込み技術、Mix技術習得する						
到達目標	鍵盤で様々なコードを弾くことができ、かつ転回することができる。 長く演奏され、スタンダードとなっている曲のメロディー、コード進行、アレンジをアナライズし学ぶことができる力を付ける メロディーにコード付けができる。また、適切な楽器構成、Groove(リズム)でアレンジできる 与えられたコード進行、リズム(Groove)を元にメロディーを思い浮かべ作曲できる 映像のBGMを作曲&アレンジ-この際インストの曲も作曲できるようになる オリジナル曲を作曲・アレンジ・完パケWAVデータ>Demoデータをして発表できるようにする。						
評価方法及び基準	1)定期テスト30% 2)提出課題30% 3)授業内評価40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	実習	・ガイダンス、アンケートを行う	アンケート回答の作成・提出する
2	/	実習	・Cubaseの立ち上げ肩を学ぶジャンル別サンプレート・Trに割り当てられた音源(楽器)の音を出してみ	Audio Tr・MIDI Tr・インストゥルメント Trを覚える
3	/	実習	MIDIデータ集「Hyper Groove」をTr(楽器)別にCubaseに読み込む方法を学ぶ	MIDIデータ集「Hyper Groove」を用いた様々な音楽ジャンルのアレンジを学ぶ。
4	/	実習	鍵盤でのドレミの位置、音名CDE--- 鍵盤での全音 半音とは	コードネーム、音符による楽譜を作るこの「オケ」にメロディーを作曲する。
5	/	実習	・鍵盤でのドレミの位置、音名CDE---を復習する	メジャー3和音を「鍵盤の色」で分類したプリント課題を作成する
6	/	実習	・長調(メジャースケール) 全全半全全半	メジャーとマイナーコードの違いを復習する
7	/	実習	・コードの作り方・記憶法(鍵盤の色)を学ぶ	7th---ルートの全音下の音を復習する M7th---ルートの半音下の音を復習する
8	/	実習	コード進行パターン(カデンツ)基本の4種を学ぶ① I-V-I ② I-IV-I ③ I-IV-V-I ④ I-II m7-V7-I	コードに慣れる 課題曲Hey Judeを練習する
9	/	実習	コードの機能、ダイアトニックコード、代理コードを学ぶ	コードに慣れる。課題曲Uptown Girl 途中転調3回の曲、様々なコードを覚える
10	/	実習	「ドレミの歌」メロディーとコードの関係を学ぶ①	①「ドレミの歌」リードシート(メロとコードの譜面)に書かれているコードを鍵盤で弾く
11	/	実習	「ドレミの歌」メロディーとコードの関係を学ぶ②ドミナントV7をII m7-V7に分割するサブドミナントIVを代理のII m7にする	②「ドレミの歌」メロディーのみの譜面にコードを付ける(①が答えになる)
12	/	実習	「ドレミの歌」メロディーとコードの関係を学ぶ③	③「ドレミの歌」メロディーのみの譜面にコードを付ける(①が答えになる)
13	/	実習	「Hey Jude」のコード進行を分析する	すでに知っているコードを曲のkeyで何番目かによりI~VII(ディグリーネーム化)に書き直し機能(T SD D)分析する
14	/	実習	ハウス/ダンス (HG3>GS>01_H1_S)コードを分析しコードネームに表す	「Hyper Groove3」のデータファイルをCubaseにドラッグ&ドロップし分析してメロディーを付ける
15	/	実習		
16	/	実習	カントリー・ポップを学ぶ① p20~21 テンポ80 bpm ♪パターン 01~03 音源 7, 8	「ジャンバラヤ」カーベンターズを練習する 「カントリーロード」ジョンデンバー
17	/	実習	カントリー・ロックを学ぶ② p22~23 テンポ110 bpm ♪パターン 01~03 音源 9, 10	C.C.R.「雨を見たかい」「ブラウドメアリー」を練習する
18	/	実習	Bluesを学ぶ 12小節 3コード	Blues Rock (HG3>GS>24_BL_S)を練習する
19	/	実習	ブルージーなバックギンクを学ぶ p52~55 ♪パターン 01~07 音源 23, 24	「Can't Buy Me Love」(ビートルズ)を練習する
20	/	実習	アドリブ即興演奏を学ぶ F bluesにおけるad-libフレーズの作り方を学ぶ	<Jazz blues> C Jam Blues (Cblues)
21	/	実習	アドリブ即興演奏を学ぶ スケールの1音、2音、3音、4音、全ての音を	<Jazz blues> Bag's Groove (Fblues)
22	/	実習	「When You Wish Upon a Star」分析 メロディーのみの譜面にコード付け	前期メロディコード進行分析のまとめ メロディーとコード、ベース音との関係
23	/	実習	ワークショップ・楽曲制作を行う①	これまでの学習内容を基にしたオリジナル楽曲を作成する。
24	/	実習	ワークショップ・楽曲制作を行う②	これまでの学習内容を基にしたオリジナル楽曲を作成する。
25	/	実習	ワークショップ・楽曲制作を行う③	これまでの学習内容を基にしたオリジナル楽曲を作成する。
26	/	実習	ワークショップ・楽曲制作を行う④	これまでの学習内容を基にしたオリジナル楽曲を作成する。
27	/	実習	ワークショップ・楽曲制作を行う⑤	これまでの学習内容を基にしたオリジナル楽曲を作成する。
28	/	実習	ワークショップ・楽曲制作を行う⑥	これまでの学習内容を基にしたオリジナル楽曲を作成する。
29	/	実習	ワークショップ・課題提出	添削を基に最終調整を行う
30	/	試験		
準備学習 時間外学習	<夏休み課題> 「かっこいいコード進行」.smf、「Hyper Groove3」MIDIデータとmp3データをCubaseに読み込み2つ以上のデータにメロを付けるとともにサビを考えフルコーラスのオリジナル曲を完成させ提出			
【使用教科書・教材・参考書】 □ Inst Ensemble(黒瀬 寛幸) I & II 「キーボード・バックギンクパターン138」略KB 「Hyper Groove3」略HG3 「かっこいいコード進行」略C				

科目名 (英)	作曲・編曲Ⅱ (Composition / ArrangementⅡ)	必修 選択	必修 選択	年次	2年	担当教員	稲垣達也
学科・コース	音楽コミュニケーション科(3年制昼間1部)	授業 形態	実習	総時間 (単位)	120 4	開講区分	年間 曜日・時限 木曜1・2限
教員の略歴	1982年よりピアニスト・作曲家として活動。Jazz Popsをベースにジャンルフリーに作曲演奏活動し、CDもリリース。2004年にはNHK番組の音楽も担当。						
授業の学習内容	①ジャンル別MIDIデータファイルをCubaseにドラッグ&ドロップし分析してメロディーを付ける(作曲する) ②コード進行パターン>コード先行でメロを考えよう>メロディーの音の選び方(コード内外) 始まるタイミング(強起弱起) ③コードの機能(T, SD, Dとその代理コード、セカンダリドミナント)>コード進行を作る>リハーモナイズ ④メロディー先行で作曲>コードをつける 歌詞先行の作曲 ⑤①~④を完全なWAVデータとして仕上げるためDAWソフト(Cubase)で楽器別の打ち込み技術、Mix技術を習得する						
到達目標	鍵盤で様々なコードを弾くことができ、かつ転回することができる。 長く演奏され、スタンダードとなっている曲のメロディー、コード進行、アレンジをアナライズし学ぶことができる力 メロディーにコード付けができる。また、適切な楽器構成、Groove(リズム)でアレンジできる 与えられたコード進行、リズム(Groove)を元にメロディーを思い浮かべ作曲できる 映像のBGMを作曲&アレンジ—この際インストの曲も作曲できるようになる オリジナル曲を作曲・アレンジ・完パケWAVデータ>Demoデータをして発表できるようにする。						
評価方法と基準	1)定期テスト30% 2)提出課題30% 3)授業内評価40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	／	実習	ガイダンス、アンケートを行う	アンケート回答の作成・提出する
2	／	実習	8 & 16 beat PopのCubaseへのTr別に読み込み方法を習得する	Hyper Groove (Rock & Pops) のMIDIファイル01のデータを自宅でも解析する
3	／	実習	様々なウィンドウから音の情報を読み取り各自のアレンジの技術に生かす	Hyper Groove (Rock & Pops) のMIDIファイル01のデータを自宅でも解析する
4	／	実習	前週のデータのOrg, Gr, Bassパートを聴き、キーエディター画面でエディットする	各和音の構成音、ベース音を確認しながらコードネーム化する
5	／	実習	3つのBlue Note = b3 #4(b5) b7を使いこなす	Blue Note Scaleから#4を除いたMinor Pentatonicを使う
6	／	実習	8 & 16 beat Popのコードの解析—Org Trキーエディター	構成音を五線紙に書き出す
7	／	実習	8 & 16 beat Popのコードの解析—Org Trキーエディター	Bass Trを確認の上コードネーム確定する
8	／	実習	Blues Rock (HG3)GS>24.BL.S]CROSSROADS] (エリック・クラプトン)	各々のコード進行、使われているスケールを解析する
9	／	実習	Blues Rock (HG3)GS>24.BL.S]CROSSROADS] (ビートルズ)	各々のコード進行、使われているスケールを解析する
10	／	実習	ワークショップ・楽曲制作を行う①	これまでの学習内容を基にしたオリジナル楽曲を作成する。
11	／	実習	ワークショップ・楽曲制作を行う②	これまでの学習内容を基にしたオリジナル楽曲を作成する。
12	／	実習	ワークショップ・楽曲制作を行う③	これまでの学習内容を基にしたオリジナル楽曲を作成する。
13	／	実習	ワークショップ・課題を提出する	添削を基に最終調整を行う
14	／	実習	前期の振り返りと復習	
15	／	試験		
16	／	実習	British Rock (HG3)GS>20.BK.S]MP3.DATAフォルダ>20BRTRCK.MP3	The Police「Every Breath You Take〜見つめていたい」
17	／	実習	コード進行、バンドとしての構成を分析されているDTMの技術も研究する	ボズ・スキヤッグス「We are all alone」を参考に作業する
18	／	実習	前回の曲をバックにいくつかの楽器でad-lib soloを考える	「We are all alone」をアナライズする
19	／	実習	ブラック・コンテンポラリーデータを再生しながらメロディーを付ける	「September」(Earth Wind & Fire)をアナライズする
20	／	実習	ブルース Blue NoteBlueの3音—b3 #4(b5) b7を使用したメロディ作りを行う	<Jazz blues>CとFでBlue Note Scaleを作る① Bag's Groove (C blues)
21	／	実習	ブルース Blue NoteBlueの3音—b3 #4(b5) b7を使用したメロディ作りを行う	<Jazz blues>CとFでBlue Note Scaleを作る② Bag's Groove (F blues)
22	／	実習	<アドリブ即興演奏>Bluesにおけるad-libフレーズの作り方を学ぶ	ad-libアドリブ(即興演奏)の練習を行う
23	／	実習	Funk RockバグにGt.S.Sax Epなどのアドリブソロを考える	音源と譜面からアナライズする
24	／	実習	ワークショップ・楽曲制作を行う①	これまでの学習内容を基にしたオリジナル楽曲を作成する。
25	／	実習	ワークショップ・楽曲制作を行う②	これまでの学習内容を基にしたオリジナル楽曲を作成する。
26	／	実習	ワークショップ・楽曲制作を行う③	これまでの学習内容を基にしたオリジナル楽曲を作成する。
27	／	実習	ワークショップ・楽曲制作を行う④	これまでの学習内容を基にしたオリジナル楽曲を作成する。
28	／	実習	ワークショップ・課題を提出する	添削を基に最終調整を行う
29	／	実習	後期の振り返りと復習	
30	／	試験		
準備学習 時間外学習		<夏休み課題> 「かっこいいコード進行」smf、「Hyper Groove3」MIDIデータとmp3データをCubaseに読み込み2つ以上のデータにメロを付けるとともにサビを考えフルコーラのオリジナル曲を完成させ提出		
【使用教科書・教材・参考書】				
「キーボード・バックギンパターン138」略KB 「Hyper Groove3」略HG3 Inst Ensemble(黒瀬 寛幸) I & II				





科目名 (英)	レコーディング I (Recording I)	必修 選択	必修選択	年次	1年	担当教員	藤村崇
学科・コース	音楽コミュニケーション科(3年制昼間I部)	授業 形態	実習	総時間 (単位)	120 4	開講区分	前期 曜日・時限 土曜1・2限
教員の略歴	1976年よりટેイテックレコード新橋スタジオ、メディアスタジオほか多くのセッションを経験。また多くのスタジオ設計プロデューサーも行う。						
授業の学習内容	スタジオ内の各種機材を使用しコンピューターを使用した録音作業を実践し学習する。						
到達目標	スタジオの仕組みを理解し基本的な録音ができるようになる。						
評価方法と基準	授業内評価:70%、試験:30%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1	／	実習	スタジオの機能と各機材の役割を理解する。	コンソールルームと各スタジオブースのin、outの流れを把握する	
2	／	実習	各種の接続ケーブルを見て役割を学ぶ。	バランス、アンバランス、パッチ、MIDI、USB、デジタル、それぞれの特性を把握する。	
3	／	実習	バランスとアンバランス接続を理解する。	X、L、Rそれぞれの信号の関係性を把握する。	
4	／	実習	ダイナミックマイクの構造と特徴を理解する。	SHURE 58とSHURE 57の基本的な使用方法を理解し実践してみる。	
5	／	実習	コンデンサーマイクの構造と特徴を理解する。	Neumann U87、AKG 414をセッティングし、マイクで拾った音を聞いてみる。	
6	／	実習	リボンマイクや特殊なマイクを理解する。	それぞれのマイクを使用してサウンドの違いを確かめる。	
7	／	実習	ProToolsに録音する方法を学ぶ。	セッションをセットアップし、4トラック以上、80音以上のオーディオトラックを作成する。	
8	／	実習	DIの役割を理解する。	コンソールから+48Vの電力を供給し、増幅されたインプットレベルを計測・確認する。	
9	／	実習	マイクプリアンプの役割を理解する。	スタジオ常設のプリアンプを複数台使用し、音色の違いを確かめる。	
10	／	実習	イコライザーの役割を理解する。	イコライザーの周波数帯と音の相互性を確認する	
11	／	実習	コンプレッサーの役割を理解する。	Gain、threshold、ratio、Attack、releaseなどの用語と役割を覚える。	
12	／	実習	PAとRecordingの違いについて考える。	PAとRecordingの違いについての見解をレポートする。	
13	／	実習	ディレイについて理解する。	録音時、ミキシング時の基本的な使い方を実践してみる。	
14	／	試験			
15	／	実習	リバーブについて理解する。	録音時、ミキシング時の基本的な使い方を実践してみる。	
16	／	実習	SSLのパッチベイを理解する。	基本的なセッティングを理解し各自でセッティングを復習する。	
17	／	実習	ヴォーカルのマイクセッティングを考える。	録音するジャンルとシンガーのタイプを考えて使用するマイクを選定し録音を実践する。	
18	／	実習	ワークショップ・ヴォーカルを録音する①	録音するジャンルとシンガーのタイプを考えて使用するマイクを選定し録音を実践する。	
19	／	実習	アコギでオンマイクとオフマイクを理解する。	2本のマイクを立ててサウンドを比較し、ミキシングやフェイズなどを試して音質を確かめる。	
20	／	実習	ワークショップ・楽器録音:アコギを録音する①	2本のマイクを立ててサウンドを比較し、ミキシングやフェイズなどを試して音質を確かめる。	
21	／	実習	ドラムのマイクセッティングを考える。	録音するジャンルと使用するセット(楽器)を考えて使用するマイクを選定し録音を実践する。	
22	／	実習	ワークショップ・楽器録音:ドラムを録音する①	録音するジャンルと使用するセット(楽器)を考えて使用するマイクを選定し録音を実践する。	
23	／	実習	ワークショップ・楽器録音:ドラムを録音する②	イコライザー、コンプレッサー、リバーブなど様々なエフェクトを試してミキシングする。	
24	／	実習	Eギターの録音を考える。	ロックギターのリズムトラックを録音する。	
25	／	実習	ワークショップ・楽器録音:エレキギターを録音する①	ロックギターのリードトラックを多重録音する。リズムトラックとミキシングしてみる。	
26	／	実習	ベースの録音を考える。	ファンクベースの音作りを意識して録音する。	
27	／	実習	ワークショップ・楽器録音:ベースを録音する①	ファンクベースの音作りを意識して録音する。エフェクトを各種試してみる。	
28	／	実習	ピアノのマイクセッティングを考える。	アップライトピアノを使用してソロピアノを録音する。	
29	／	実習	ワークショップ・楽器録音:ピアノを録音する①	アップライトピアノを使用してソロピアノを録音する。	
30	／	試験	一年間の理解を確かめ再確認する。		
準備学習 時間外学習					
【使用教科書・教材・参考書】 □					

科目名 (英)	レコーディングⅡ (RecordingⅡ)	必修 選択	必修 選択	年次	2年	担当教員	藤村崇
学科・コース	音楽コミュニケーション科(3年制昼間Ⅰ部)	授業 形態	実習	総時間 (単位)	120 4	開講区分	前期 月曜1・2 限
教員の略歴	1976年よりટેイテクレコード新橋スタジオ、メディアスタジオほか多くのセッションを経験。また多くのスタジオ設計プロデュースも行う。						
授業の学習内容	スタジオ内の各種機材を使用しコンピューターを使用した録音作業を実践し学習する。						
到達目標	一般的な録音作業を理解し実践出来るようになる。						
評価方法と基準	授業内評価:70%、試験:30%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	／	実習	ProToolsの初期設定を理解する。	各種音質設定をサンプルを参考に比較する。
2	／	実習	ProToolsの各種トラックを理解する。	オーディオ、MIDI、ビデオトラックなどを複合したセッションを作成してみる。
3	／	実習	タイムコードとクロックを理解する。	MIDI機器を複数台リンクして同期を試してみる。
4	／	実習	ステレオマイクセッティングを理解する。	ステレオマイクを設置して録音し、モノラルとの違いを比較する。
5	／	実習	実践的なEQの使い方を考える。	ドラムの録音にイコライザーを使用してみる。
6	／	実習	実践的なコンプレッサーの使い方を考える。	ドラムの録音にコンプレッサーを使用してみる。
7	／	実習	実践的なディレイの使い方を考える。	ヴォーカルの録音にディレイを使用してみる。
8	／	実習	実践的なリバーブの使い方を考える。	ヴォーカルの録音にリバーブを使用してみる。
9	／	実習	HAの使い方を考える。	ミキサー内蔵のマイクプリアンプや外付けタイプの機種など特徴を覚える。
10	／	実習	トランスの役割を理解する。	スタジオ内の電源口の電圧の違いと、115Vの用途を把握する。
11	／	実習	DI とリアンプを理解する。	リアンプ時の出力レベル範囲を把握し、実際に音を録音して試聴する。
12	／	実習	実音とデジタルのレーテンシーを考察する。	ディレイ(遅延)を軽減させる手法とマシンスペック・パワーのバランスを各機で試してみる。
13	／	実習	デジタルとアナログの接続ケーブルを学ぶ。	アナログ接続ケーブルのメーカー、グレード、長さなど複数試して違いを確かめる。
14	／	実習	ワークショップ:録音実習を行う。	前週までで学んだ知識を活用してデモ音源を作成する。
15	／	試験		
16	／	実習	ワークショップ:録音実習を行う。	前週までで学んだ知識を活用してデモ音源を作成する。
17	／	実習	ProTools のデジタル接続を理解する。	PC、インターフェース、ミキサーの間でデジタル使用による音質の違いを確かめる。
18	／	実習	マルチコンプレッサーを理解する。	プラグインを利用して帯域ごとにGAINを調節して音色を確認する。
19	／	実習	アナログレコーダーを理解する。	アナログの音質の長所、短所とテープを扱う上での注意点を把握する。
20	／	実習	ワークショップ:録音実習を行う。	前週までで学んだ知識を活用してデモ音源を作成する。
21	／	実習	ワークショップ:録音実習を行う。	前週までで学んだ知識を活用してデモ音源を作成する。
22	／	実習	ProTools のバウンスを理解する。	仕事内容、目的に応じて作成するファイル形式が異なる事を復習し、把握する。
23	／	実習	M-Sマトリックスを学ぶ。	ステレオ信号を、Mid感度(L+R)とSide感度(L-R)の2チャンネルに分けてMIXLしてみる。
24	／	実習	マスタリングについて理解する。	サンプルセッションを使用してマスタリングを完成させる。
25	／	実習	ワークショップ:録音実習を行う。	前週までで学んだ知識を活用してデモ音源を作成する。
26	／	実習	ワークショップ:録音実習を行う。	前週までで学んだ知識を活用してデモ音源を作成する。
27	／	実習	PCM録音と1Bit録音について理解する。	1bit録音で作成された音源を視聴し、音質を確かめる。
28	／	実習	ワークショップ:録音実習を行う。	前週までで学んだ知識を活用してデモ音源を作成する。
29	／	実習	ワークショップ:録音実習を行う。	前週までで学んだ知識を活用してデモ音源を作成する。
30	／	試験	一年間の理解を確かめ再確認する。	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	レコーディングⅢ (RecordingⅢ)	必修 選択	必修 選択	年次	3年	担当教員	小出一之
学科・コース	音楽コミュニケーション科(3年制昼間Ⅰ部)	授業 形態	実習	総時間 (単位)	120 4	開講区分	年間 曜日・時限 火曜1,2限
教員の略歴	2003年よりレコーディングエンジニアとしてMonkeymajik等のアーティストを担当、現在はプロデューサーとしてアーティスト育成も行う						
授業の学習内容	レコーディング及びMIX、マスタリング技術秘術の習得						
到達目標	ワンオペにてレコーディングを完結MIXマスタリングまで仕上げる。						
評価方法及び基準	筆記試験、(20問)実習(レコーディングマイキング、サウンドチェック)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	実習	ミキサーコンソールを使用して声を録音する	録音データの整理と処理作業を行う
2	/	実習	ミキサーコンソールを使用して声を編集する	録音データの整理と処理作業を行う
3	/	実習	Protoolsの高度な設定な実践する	2年次に学んだ技術を事前に復習しておく
4	/	実習	DIを使ったライン録音を実践する	録音データの整理と処理作業を行う
5	/	実習	ドラムマイキングとサウンドチェックを行う	テスト録音データやクリックトラックの整理と処理作業を行う
6	/	実習	ドラムレコーディングとミキシングを行う	ドラムセットのPAN・奥行・コンプなど活用する
7	/	実習	ギター、ベースレコーディングを行う	ギターはDRYとWETの両方を録音し、シミュレーターも活用する
8	/	実習	ProtoolsとDualityを使用したMIXについて学ぶ	2年次に学んだ技術を事前に復習しておく
9	/	実習	ProtoolsとDualityを使用したMIXについて学ぶ	2年次に学んだ技術を事前に復習しておく
10	/	実習	マスタリング作業を実践する	2年次に学んだ技術を事前に復習しておく
11	/	実習	ミュージシャンとコラボレーションして録音実習を行う	ドラム・ベースのレコーディングを行う
12	/	実習	ミュージシャンとコラボレーションして録音実習を行う	ギター・ヴォーカルのレコーディングを行う
13	/	実習	ミュージシャンとコラボレーションして録音実習を行う	ラフミックス作業を行う
14	/	実習	ミュージシャンとコラボレーションして録音実習を行う	ミックス・マスタリング作業を行う
15	/	試験		
16	/	実習	前期の復習と後期のスケジュールを確認する	録音データを聞き返して反省点を考えておく
17	/	実習	アウトボード、リアンプ実習を行う	パラメータを変えていくつかのパターンを録音
18	/	実習	Protoolsを使用したDTM作業を行う	事前に楽曲の楽譜を準備しておく
19	/	実習	ミキシング実習を行う	企業課題の楽曲データを準備しておく
20	/	実習	ミキシング実習を行う	企業課題の楽曲データを準備しておく
21	/	実習	マスタリング実習を行う	企業課題の楽曲データを準備しておく
22	/	実習	マスタリング実習を行う	企業課題の楽曲データを準備しておく
23	/	実習	サミング実習を行う	企業課題の楽曲データを準備しておく
24	/	実習	サミング実習を行う	企業課題の楽曲データを準備しておく
25	/	実習	CD入稿DDPIについて学ぶ	製品化されるまでの作業工程を復習する
26	/	実習	ミュージシャンとコラボレーションして録音実習を行う	ドラム・ベースのレコーディングを行う
27	/	実習	ミュージシャンとコラボレーションして録音実習を行う	ギター・ヴォーカルのレコーディングを行う
28	/	実習	ミュージシャンとコラボレーションして録音実習を行う	ラフミックス作業を行う
29	/	実習	ミュージシャンとコラボレーションして録音実習を行う	ミックス・マスタリング作業を行う
30	/	試験	テスト	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	音楽ビジネス I (Music Business I)	必修 選択	必修 選択	年次	1年	担当教員	唐澤淳
学科・コース	音楽コミュニケーション科(3年制昼間I部)	授業 形態	実習	総時間 (単位)	120 4	開講区分 曜日・時限	年間 土曜1・2限
教員の略歴	1992年よりフリーランスローディーとして活動し、現在は起業してアーティスト及びクリエイターの育成やマネジメントなどを手掛ける						
授業の学習内容	夢というものから、自分の目指す「目標点」を見つけ、そこに到達するための「計画」を立て、必要なミッションを遂行するという流れを習慣化し、結果を残すことを目指す。 一般的な事例も学びながら、日々の中で計画の練り直しや、目標点の再確認などを、各個人のケースに合わせて進めながら進めます。						
到達目標	各自が定めた目標における計画の中で、遂行率に対して80%以上を目指す。						
評価方法と基準	1. 実技試験(%) : 0% 2. 筆記試験(%) : 0% 3. 課題(%) : 100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	実習	授業の概要説明と目標設定の仕方を学ぶ	自分の目標地点を明確に探す
2	/	実習	プロジェクト ミーティングを行う	各自見せたいパフォーマンスを考え、グループを組織する
3	/	実習	プロジェクト リハーサルを行う	各自、グループ練習及び作品制作を行う
4	/	実習	プロジェクト 発表を行う	MCや演出を含めたパフォーマンスを考える
5	/	実習	現時点での課題確認と計画を調整する	計画を明確にまとめてくる
6	/	実習	計画表作成・スキルチェックを行う	各自、達成度合いの確認方法を明確にしておく
7	/	実習	オーディション対策 プロモーションツールを制作する	アーティスト写真・プロフィールシートの制作方法を学び実践する
8	/	実習	オーディション対策 プロモーションツールを制作する	デモ音源を制作の制作方法を学び実践する
9	/	実習	オーディション対策 プロモーションツールを制作する	Youtubeなどの映像コンテンツの制作方法を学び実践する
10	/	実習	オーディション対策 面接作法を学ぶ	各種オーディションに応じた挨拶・言葉遣い・立ち方・歩き方・質疑応答の準備等を身に付ける
11	/	実習	オーディション対策 面接作法を学ぶ	各種オーディションに応じた挨拶・言葉遣い・立ち方・歩き方・質疑応答の準備等を身に付ける
12	/	実習	オーディション対策 パフォーマンス指導	演奏だけでなく、客席・審査員に向けたパフォーマンスをステージで演奏・演技する
13	/	実習	オーディション対策 パフォーマンス指導	アウェイな環境でも平常心で力を発揮できるようなモニター環境や照明などを想定して演奏・演技する
14	/	実習	計画表作成・スキルチェックを行う	各自、達成度合いの確認方法を明確にしておく
15	/	実習	現時点での課題確認と計画を調整する	計画を明確にまとめてくる
16	/	実習	ミュージカルプロジェクト ミーティングを行う	企業課題があることを認識し、コンセプトとミッションを明確にして役割を担う
17	/	実習	ミュージカルプロジェクト スキルチェックを行う	各自、グループ練習及び作品制作を行う
18	/	実習	ミュージカルプロジェクト リハーサルを行う	各自、グループ練習及び作品制作を行う
19	/	実習	ミュージカルプロジェクト リハーサルを行う	各自、グループ練習及び作品制作を行う
20	/	実習	ミュージカルプロジェクト 合同リハを行う	各自、グループ練習及び作品制作を行う
21	/	実習	ミュージカルプロジェクト 外部ホールリハを行う	各自、グループ練習及び作品制作を行う
22	/	実習	ミュージカルプロジェクト 外部ホールゲネプロを行う	各自、グループ練習及び作品制作を行う
23	/	実習	ミュージカルプロジェクト 外部ホール本番を行う	各自、グループ練習及び作品制作を行う
24	/	実習	現時点での課題確認と計画を調整する	計画を明確にまとめてくる
25	/	実習	Wearプロジェクト 計画チェックを行う	ユニットごとのミーティング
26	/	実習	Wearプロジェクト 資料制作を行う	パフォーマンスの具体的な演出を決定
27	/	実習	Wearプロジェクト リハーサルを行う	各自音源制作およびパフォーマンス練習
28	/	実習	Wearプロジェクト リハーサルを行う	各自音源制作およびパフォーマンス練習
29	/	実習	Wearプロジェクト ゲネプロを行う	各自音源制作およびパフォーマンス練習
30	/	実習	Wearプロジェクト 本番を行う	企業や業界関係者に見せる事を意識して
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				
必要に応じてプリント配布				

科目名 (英)	音楽ビジネスⅡ (Music BusinessⅡ)	必修 選択	必修 選択	年次	2年	担当教員	唐澤淳
学科・コース	音楽コミュニケーション科(3年制昼間Ⅰ部)	授業 形態	実習	総時間 (単位)	120 4	開講区分 曜日・時限	年間 金曜1・2限
教員の略歴	1992年よりフリーランスローディーとして活動し、現在は起業してアーティスト及びクリエイターの育成やマネジメントなどを手掛ける						
授業の学習内容	夢というものから、自分の目指す「目標点」を見つけ、そこに到達するための「計画」を立て、必要なミッションを遂行するという流れを習慣化し、結果を残すことを目指す。 一般的な事例も学びながら、日々の中で計画の練り直しや、目標点の再確認などを、各個人のケースに合わせてながら進めます。						
到達目標	各自が定めた目標における計画の中で、遂行率に対して80%以上を目指す。						
評価方法と基準	1. 実技試験(%) : 0% 2. 筆記試験(%) : 0% 3. 課題(%) : 100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	／		授業の概要説明と目標設定の仕方を学ぶ	自分の目標地点を明確に探す
2	／	実習	プロジェクト ミーティングを行う	各自見せたいパフォーマンスを考え、グループを組織する
3	／	実習	プロジェクト リハーサルを行う	各自、グループ練習及び作品制作を行う
4	／	実習	プロジェクト 発表を行う	MCや演出を含めたパフォーマンスを考える
5	／	実習	現時点での課題確認と計画を調整する	計画を明確にまとめてくる
6	／	実習	計画表作成・スキルチェックを行う	各自、達成度合いの確認方法を明確にしておく
7	／	実習	オーディション対策 プロモーションツールを制作する	アーティスト写真・プロフィールシートの制作方法を学び実践する
8	／	実習	オーディション対策 プロモーションツールを制作する	デモ音源を制作の制作方法を学び実践する
9	／	実習	オーディション対策 プロモーションツールを制作する	Youtubeなどの映像コンテンツの制作方法を学び実践する
10	／	実習	オーディション対策 パフォーマンスを実演する	各自、グループ練習及び作品制作を行う
11	／	実習	オーディション対策 パフォーマンスを実演する	各自、グループ練習及び作品制作を行う
12	／	実習	オーディション対策 パフォーマンスを実演する	各自、グループ練習及び作品制作を行う
13	／	実習	オーディション対策 パフォーマンスを実演する	各自、グループ練習及び作品制作を行う
14	／	実習	計画表作成・スキルチェックを行う	各自、達成度合いの確認方法を明確にしておく
15	／	実習	現時点での課題確認と計画を調整する	計画を明確にまとめてくる
16	／	実習	ミュージカルプロジェクト ミーティングを行う	企業課題があることを認識し、コンセプトとミッションを明確にして役割を担う
17	／	実習	ミュージカルプロジェクト スキルチェックを行う	各自、グループ練習及び作品制作を行う
18	／	実習	ミュージカルプロジェクト リハーサルを行う	各自、グループ練習及び作品制作を行う
19	／	実習	ミュージカルプロジェクト リハーサルを行う	各自、グループ練習及び作品制作を行う
20	／	実習	ミュージカルプロジェクト 合同リハを行う	各自、グループ練習及び作品制作を行う
21	／	実習	ミュージカルプロジェクト 外部ホールリハを行う	各自、グループ練習及び作品制作を行う
22	／	実習	ミュージカルプロジェクト 外部ホールゲネプロを行う	各自、グループ練習及び作品制作を行う
23	／	実習	ミュージカルプロジェクト 外部ホール本番を行う	各自、グループ練習及び作品制作を行う
24	／	実習	現時点での課題確認と計画を調整する	計画を明確にまとめてくる
25	／	実習	Wearプロジェクト 計画チェックを行う	ユニットごとのミーティング
26	／	実習	Wearプロジェクト 資料制作を行う	パフォーマンスの具体的な演出を決定
27	／	実習	Wearプロジェクト リハーサルを行う	各自音源制作およびパフォーマンス練習
28	／	実習	Wearプロジェクト リハーサルを行う	各自音源制作およびパフォーマンス練習
29	／	実習	Wearプロジェクト ゲネプロを行う	各自音源制作およびパフォーマンス練習
30	／	実習	Wearプロジェクト 本番を行う	企業や業界関係者に見せる事を意識して
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】□				
必要に応じてプリント配布				

科目名 (英)	音楽ビジネスⅢ (Music BusinessⅢ)	必修 選択	必修 選択	年次	3年	担当教員	及川有正
学科・コース	音楽コミュニケーション科(3年制昼間I部)	授業 形態	実習	総時間 (単位)	120 4	開講区分 曜日・時限	年間 木曜1・2 限
教員の略歴	1981年よりプロモーターとしてジャパンレコード、ホットスタッフ・プロモーションにてビテカートVなどのアーティストを手掛ける。						
授業の学習内容	プロダクション、レコード会社に関連する、各種の仕事の説明、それらの関係性について自分の興味を把握する(好きな音楽の分析)、過去の音源の把握 新しいメディアを使ったプロモーションの実際、新人アーティストの発掘と育成方法アーティスト、レコード会社、プロダクションの仕事の内容から、そこに関係する仕事を説明していく。 ライブ、音源制作、マーチャンダズ等から、総合的な視点で音楽の仕事をとらえられる方向を示す。 ソーシャルメディア等新しいプロモーションの実際と、音楽を流通させる方法を、アップ・トゥ・デイトで考えていく。						
到達目標	音楽業界のいろいろな仕事とその関係性を理解する。それとともに、激動する音楽シーンの新しい動きを把握し ともに、これからの音楽シーンを考える。						
評価方法と基準	① イベント企画書の制作 50% ② イベント制作演習 30% ③ まとめのレポート 20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	実習	音楽業界の変遷を学ぶ	グループミーティングを行いレポートを作成する
2	/	実習	1998年にピークを迎えた音楽業界の歴史を把握する	グループミーティングを行いレポートを作成する
3	/	実習	様々なプロモーション方法を学ぶ	グループミーティングを行いレポートを作成する
4	/	実習	宣伝方法の実際を把握する	グループミーティングを行いレポートを作成する
5	/	実習	メディアの変化、新しい動きと前回までの歴史とを比較する	グループミーティングを行いレポートを作成する
6	/	実習	音源制作の実際を学ぶ	グループミーティングを行いレポートを作成する
7	/	実習	レコーディング風景とスタッフの役割を学ぶ	グループミーティングを行いレポートを作成する
8	/	実習	経費について学ぶ	グループミーティングを行いレポートを作成する
9	/	実習	収入、支出を把握する	グループミーティングを行いレポートを作成する
10	/	実習	音源・ライブ制作費の実際を学ぶ	グループミーティングを行いレポートを作成する
11	/	実習	プロダクションについて学ぶ	グループミーティングを行いレポートを作成する
12	/	実習	アーティストをサポートする立場からのスタッフの役割を学ぶ	グループミーティングを行いレポートを作成する
13	/	実習	レコード会社の現状を学ぶ	グループミーティングを行いレポートを作成する
14	/	実習	インディーズの現状を学ぶ	グループミーティングを行いレポートを作成する
15	/	試験	まとめ レポート	
16	/	実習	インディーズの運営①実際の仕事内容を知る	グループミーティングを行いレポートを作成する
17	/	実習	インディーズの運営②具体的な仕事内容を理解する	グループミーティングを行いレポートを作成する
18	/	実習	新しいメディアを使いこなす	グループミーティングを行いレポートを作成する
19	/	実習	映像編集の仕事を学ぶ	グループミーティングを行いレポートを作成する
20	/	実習	メディアのアップロードのルールを学ぶ	グループミーティングを行いレポートを作成する
21	/	実習	ワークショップ ライブ開催 宣伝・実際の運営を行う	業務報告レポートを作成する・反省秋を行う
22	/	実習	ワークショップ ライブ開催 宣伝・実際の運営を行う	業務報告レポートを作成する・反省秋を行う
23	/	実習	ワークショップ ライブ開催 宣伝・実際の運営を行う	業務報告レポートを作成する・反省秋を行う
24	/	実習	ワークショップ ライブの反省	ライブを通して、アーティスト、スタッフとどのようにコミュニケーションをとるか考える
25	/	実習	ワークショップ ライブ開催 宣伝・実際の運営を行う	業務報告レポートを作成する・反省秋を行う
26	/	実習	ワークショップ ライブ開催 宣伝・実際の運営を行う	業務報告レポートを作成する・反省秋を行う
27	/	実習	ワークショップ ライブ開催 宣伝・実際の運営を行う	業務報告レポートを作成する・反省秋を行う
28	/	実習	ワークショップ ライブ開催 宣伝・実際の運営を行う	業務報告レポートを作成する・反省秋を行う
29	/	実習	ワークショップ ライブの反省	ライブを通して、アーティスト、スタッフとどのようにコミュニケーションをとるか考える
30	/	試験	まとめ レポート	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名 (英)	楽器レッスン I ( Keyboard I )	必修 選択	必修 選択	年次	1年	担当教員	今藤雅博
学科・コース	音楽コミュニケーション科(3年制昼間I部)	授業 形態	実習	総時間 (単位)	120 4	開講区分	年間 曜日・時限 火曜1・2限
教員の略歴	2007年よりミュージシャンとしてアーティストの演奏サポート、セッション、作編曲で活動。						
授業の学習内容	基本的な奏法 コードの押さえ方 コードの連結方法						
到達目標	作曲したり、音楽について何かを考えたりするときに鍵盤で考えられるようになる DTMの際もある程度鍵盤で弾けるようになる						
評価方法と基準	1) 授業進捗60% 2) 授業内評価40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	実習	基本姿勢について学ぶ	指番号を把握しておく
2	/	実習	トライアドとスケールについて学ぶ①	和音の押さえ方、スケールの連指を練習する
3	/	実習	トライアドとスケールについて学ぶ②	簡単なコード進行で練習する
4	/	実習	トライアドのヴォイスングについて学ぶ①	転回形を含む課題を弾く
5	/	実習	トライアドのヴォイスングについて学ぶ②	なるべく動きが少なくなるように考える
6	/	実習	楽曲で練習する	慣れないうちは片手でも良い
7	/	実習	楽曲で練習する	両手で弾いてみる
8	/	実習	楽曲で練習する	余裕があればメロディーも弾く
9	/	試験		
10	/	実習	7thコードについて学ぶ①	和音の押さえ方を練習する
11	/	実習	7thコードについて学ぶ②	転回形の練習する
12	/	実習	7thコードについて学ぶ③	簡単なコード進行で練習する
13	/	実習	7thコードについて学ぶ④	簡単なコード進行で練習する
14	/	実習	楽曲で練習する	7thコードを使用して練習 する
15	/	実習	楽曲で練習する	余裕があればメロディーも弾く
16	/	実習	楽曲で練習する	余裕があればメロディーも弾く
17	/	試験		
18	/	実習	伴奏型について学ぶ①	よく使われる伴奏型を覚える
19	/	実習	伴奏型について学ぶ②	よく使われる両手での伴奏型を覚える
20	/	実習	テンションコードについて学ぶ①	よく使われる形の学習する
21	/	実習	テンションコードについて学ぶ②	コード進行で練習する
22	/	実習	楽曲で練習する	テンションコードを使用して練習する
23	/	実習	楽曲で練習する	自分でヴォイスングを考える
24	/	実習	楽曲で練習する	自分でヴォイスングを考える
25	/	試験		
26	/	実習	スラッシュコードについて学ぶ①	よく使われる形の学習する
27	/	実習	スラッシュコードについて学ぶ②	コード進行で練習する
28	/	実習	楽曲で練習する	スラッシュコードを使用して練習する
29	/	実習	楽曲で練習する	スラッシュコード・クリシェを使用して練習する
30	/	試験		
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 iPad教材、プリント配布、五線紙、筆記用具				



科目名 (英)	楽器レッスンⅡ (KeyboardⅡ)	必修 選択	必修 選択	年次	2年	担当教員	稲垣達也
		授業 形態	実習	総時間 (単位)	120 4	開講区分	年間 水曜1・2限
学科・コース	音楽コミュニケーション科(3年制昼間1部)						
教員の略歴	1982年よりピアニスト・作曲家として活動。Jazz Pianoをベースにジャンルフリーに作曲演奏活動し、CDもリリース。2004年にはNHK番組の音楽も担当。						
授業の学習内容	1年次に習得したPianoの基礎演奏技術(脱力)指に重さが乗せられる、ハノン、コードネームによる演奏、ペダルをもとに2年次はハイファンクによる指の筋力強化、ハノンによる指の分離3-4 4-5、スケールトレーニング様々なジャンルの楽曲のアナライズと他の楽器～バンドにおけるKeyboardの役割、演奏法、コードのポインティングを総合的に習得する 音符の譜面で弾けるようになったら、リードシートだけで弾けるように仕上げる！						
到達目標	音符の読譜力を高め、Piano SoloやPianoだけによる伴奏、弾き語りができるようにする 音符による譜面が無くても、メロディー & コードの譜面(リードシート)で自ら適切なTop noteによるポインティングができる。 テンションノートを適切に使用できる。 その曲のジャンルに合ったGrooveを音源やスコアから把握し、Gt Dr Bass などアンサンブル内におけるKeybが担う役割を把握し適切なリズム、Grooveを与える コードネーム、コード進行をアナライズしてコードスケールを把握できる>コード進行に沿ったad-libができる						
評価方法と基準	1) 定期実技テスト50% 2) 授業内評価50%						

授業計画・内容							
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)		
1	／	実習	Pops メジャーKey ①-1 p8~9 ♪パターン 01~03 コード進行アナライズ ペダルポイントとは		「キーボード・バックキック」138付属音楽 音符の譜面を弾けるようになったら、Keyb無しの リードシート音源に合わせて練習する		
2	／	実習	コードネーム>まずメジャー三和音に直して弾く		>mなら3rdをb>7thやM7thがあれば付加 コードの転回によるスムーズな連続 ♪最初のコードのTop noteをメロディーとの兼ね 合いで決め♪伴奏として適切な音域に収める		
3	／	実習	Pops メジャーKey ①-2 p8~9 ♪パターン 01~03 コード進行アナライズ ペダルポイントとは リズムパターンのコードチェ ンジしたそれぞれのコードで何の音にあたるか解析		基本コードの音階上のmコード(9, 11, 13) 分数コード>ベース音をRとして書き進めてみると >3rdや5thの音階ならテンションコード の時の分子が3拍音の時はU.S.T.		
4	／	実習	Pops メジャーKey ② P10~11 ♪パターン04~07 音源 2を練習する		楽器・バンド、ローズ、シンセ・リードで練習する		
5	／	実習	①カントリーポップ p20~21 テンポ 90 bpm ♪パターン 01~03 音源 7, 8を練習する <Rhodesローズ ハモンドOrg ストリングスStr> YAMAHA P140 Others (Org, Str, Clav)		下記楽曲を練習する 「ジャンバラヤ」ハンク・ウィリアムス 「Top of the World」(カーペンターズ) 「カントリーロード」ジョン・デンバー		
6	／	実習	②カントリーロック p22~23 テンポ 110 bpm ♪パターン 01~03 音源 9, 10を練習する		下記楽曲を練習する C.C.R.「雨を降りたい」/ブラッド・メアリー		
7	／	実習	Pops マイナーKey ① p14~16 Gtとの役割分担 ♪パターン 01~03 マイナーKey ② p16~19 ♪パターン 06~11を練習する		音源 5 ポップス(ダーク)/リード・シート 音源 8 ポップス(ダーク) に合わせて練習する		
8	／	実習	ブラック・ミュージックのGroovyなバックキック P28~33 を練習する 同じコード進行だが音源(楽器)とリズムによって 様々なGrooveを生み出す		音源15 リズミック/リード・シート 音源16 リズミック に合わせて練習する		
9	／	実習	<BE> W10~12 の課題曲の音源 & keyb譜面も合 わせてアナライズ、演奏する		下記楽曲を練習する ① Ain't No Mountain High Enough ② We are the world		
10	／	実習	ブルースをBlue Noteから練習する Blue Noteの3音 b3 #4(b5) b7 ♪Blue Note Scale b3 #4(b5) b7 全て含む ♪Minor Pentatonic b3 b7		Blues Rock (HG3)GS/24 BL_S 「Crossroads」(エリック・クラプトン) 「Can't Buy Me Love」(ビートルズ) Aメロ 12小節3コードbluesリズム=シャッフル		
11	／	実習	<アドリブ即興演奏> F bluesにおけるad-ibフレーズの作り方 >スケールの1音、2音、3音、4音、全ての音 指番号「First Step」F blues / Bb blues		Solo Pianoを練習する ①「君をのせて」 RD14 LH 10thのアルペジオの作り方 ② 2 Hand ポインティング / 10thのアルペジオ		
12	／	実習	曲のジャンルを説明し、そのジャンルでの成り立ち やセッション、アンサンブル時における必要な知識 や対応力のポイントを理解し、コード進行とメロ ディの関係を考える		<Spain>アドリブは取れる人のみで構わないが、 使える音を理解する。テンポを変えて演奏し、一人 人がアレンジを考え曲に対しての様々なアプ ローチを実践する		
13	／	実習	曲を通して演奏できる事を目指し、アドリブ、エン ディングをしっかりとできるようにし、次週の録音に向 けた対策をとる		<Spain>アドリブは取れる人のみで構わないが、 使える音を理解する。テンポを変えて演奏し、一人 人がアレンジを考え曲に対しての様々なアプ ローチを実践する		
14	／	実習	ワークショップ 録音実習を行う		最終確認を行い、録音を行う。録音を確認し、何が よく、何が足りないかを考察し、どうすればよくなる か耳と自己診断を行う		
15	／	試験	<Keyb実技試験> コード、スケール(片手一両手)、選指を行う		メジャーキー ③ Intro & Outro p12~13 ♪イントロ 01~03 ♪ピアノのみ、2コード、リズム ♪アウロ 01~03		
16	／	実習	<BE> ①Uptown Girl (Key:Db-) ②Perfectを練習 する		曲の練習前に「指のストレッチ」のプリントで 腕、手首、指の脱力>腕の重さを指先に向けた奏 法により手首の筋肉だけに頼る無理な奏法を修正す る		
17	／	実習	コードネームからのR-3-5-7の見つけ方を学ぶ		例 Dm? ① D(メジャー)の手の形(鍵盤の色) ② D-Dm 3rdを半音下げる ③ 7th ルードの半音上の音を加える		
18	／	実習	<BE> W4 (5/21)~W6 (6/11) ① Virtual Insanity ハーフタイムシャッフル ② We Are Never Ever Get Back Together		Swing ⇄ Shuffle Swing(倍テン) ⇄ Half time Shuffle ⇄テンション=Double Time feelを練習する		
19	／	実習	<BE> W4~6 The Girl From Ipanema ポサノヴァ 参考 Piano Trio用附冊 バックキック/パターン ポサノヴァ p76~77 ♪パターン01~03 音源39&40を練習する		Pianoテンションコード(closeポインティング(片手) A form(3rd~) B form(7th~)を Bm7-V7-Iのコード進行で1keyで練習する		
20	／	実習	学園祭担当曲を練習する		P-140 とRD700: Transpose(移調) RD700の音源に対するExpペダルと ロータリースピードSlow or Fastの使い方 RD700本体にセッティングを記憶・保存する方法		
21	／	実習	<BE> W7~9 ① Rosanna ② Break Out <E> W7~9 Spain (Chick Corea) を練習する		ハーフタイムシャッフルの草分けTOTOの 「Rosanna」を練習する Jazzにスパニッシュとラテンを加えたChick Corea 歴史的な曲「Spain」を音源、映像などを見ながら深く		
22	／	実習	<BE> W7~9 ① Rosanna ② Break Out <E> W7~9 Spain (Chick Corea) を練習する		ハーフタイムシャッフルの草分けTOTOの 「Rosanna」を練習する Jazzにスパニッシュとラテンを加えたChick Corea 歴史的な曲「Spain」を音源、映像などを見ながら深く		
23	／	実習	ブラック・ミュージックのGroovyなバックキック P28~33 同じコード進行だが音源(楽器) とリズムによって様々なGrooveを生み出す ♪パターン 01~11を練習する		音源15 リズミック/リード・シート 音源16 リズミックを模範演奏して練習 に合わせて練習する		
24	／	実習	<BE> W10~12 ① Ain't No Mountain High Enoughを練習する		Ain't No Mountain High EnoughのRD700における 音源を選ぶ		
25	／	実習	<BE> W10~13 ② We Are the Worldを練習する		We Are the WorldのRD701における音源を選ぶ		
26	／	実習	Blues scale⇄マイナーペンタニック F bluesにおけるad-ibフレーズの作り方を学ぶ >スケールの1音、2音、3音、4音、全ての音 指番号「First Step」F blues / Bb blues		<Jazz blues>を練習する ① C Jam Blues (Obliues) 右手 テーマ&ad-ib 左手 コード2拍(5-3rd-7th-3rd)		
27	／	実習	Blues scale⇄マイナーペンタニック F bluesにおけるad-ibフレーズの作り方を学ぶ >スケールの1音、2音、3音、4音、全ての音 指番号「First Step」F blues / Bb blues		<Jazz blues>を練習する ② Bag's Groove (Fblues) 右手 テーマ&ad-ib 左手 コード2拍(5-3rd-7th-3rd)		
28	／	実習	Blues 12小節 3コードのバックキック(両手) p22~25 ♪パターン 01~07 音源 23, 24を練習する		Pianoテンションコード(closeポインティング(片手) A form(3rd~) B form(7th~)を 「結果」のLHのみのバックキックをABフォームで <ミュージカルHOMの挿入曲>		
29	／	実習	ソウルなバックキック p40~45にその先を 今まで通り音源を利用して練習する		Pianoテンションコード(closeポインティング(片手) A form(3rd~) B form(7th~)を Bm7-V7-Iのコード進行で1keyで練習する		
30	／	試験	Keyb実技試験				
準備学習 時間外学習							
【使用教科書・教材・参考書】							
キーボード・バックキックパターン138 音源ファイルは2つセット 例 05 ポップスのリードシート(Keyb以外) 06 譜面通りKeyb入り							

科目名 (英)	楽器レッスンⅢ (KeyboardⅢ)	必修 選択	必修 選択	年次	3年	担当教員	黒瀬寛幸
学科・コース	音楽コミュニケーション科(3年制昼間Ⅰ部)	授業 形態	実習	総時間 (単位)	120 4	開講区分	年間 曜日・時限 木曜1・2限
教員の略歴	1999年からベースプレイヤーとして活動し、ティーンカリーナなどのサポートやセッション、ベースマガジンへの寄稿でも知られている。						
授業の学習内容	様々なジャンルのグルーヴアナライズ、実演タイムファースト、ピッチアフターの理念を定着音色へのこだわり						
到達目標	リズムに対して嘘をつかず、演奏をリードできる視点、実力を持つ。						
評価方法と基準	1)進捗60% 2)授業内評価40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	実習	リズムトレーニングを学ぶ	Rhythm Training テキスト読み込み
2	/	実習	リズムトレーニングを学ぶ	Rhythm Training テキスト読み込み
3	/	実習	Rock Groove(8ビート)を学ぶ	ストレートなロックビートを練習する
4	/	実習	Rock Groove(8ビート)を学ぶ	撥音、発音のコントロールを行う
5	/	実習	Rock Groove(8ビート)を学ぶ	音色コントロールを行う
6	/	実習	Hard Rock(8ビート)を学ぶ	ハーフフィールなロックビートを練習する
7	/	実習	Hard Rock(8ビート)を学ぶ	エフェクター等の研究を行う
8	/	実習	Pop Rock(8ビート)を学ぶ	16分も介入するアコギグルーヴを身に付ける
9	/	実習	Pop Rock(8ビート)を学ぶ	音圧コントロールを行う
10	/	実習	Pop Rock(8ビート)を学ぶ	課題曲聞き込みを行う
11	/	実習	Pop Rock(8ビート)を学ぶ	ラウドプレイでのチューニング対策を行う
12	/	実習	Shuffle(Blues)を学ぶ	ブルース音楽聞き込みと手順整理を行う
13	/	実習	Shuffle(Blues)を学ぶ	シャッフルポップスを聞き込む
14	/	実習	Shuffle(Blues)を学ぶ	発音ポイントを考察する
15	/	試験		
16	/	実習	Triplet(12/8)を学ぶ	コードの読み込みを行う
17	/	実習	Funk Groove(Blues & JB)を学ぶ	16分音符を理解する
18	/	実習	Funk Groove(Blues & JB)を学ぶ	ジミヘンコードを理解する
19	/	実習	On Fireの演奏 アンサンブル時における必要な知識と対応力のキーポイントを理解する	テーマが弾ける人は引いてもらい一通り通す事を目標とする
20	/	実習	On Fireの演奏 コード進行とメロディの関係を考える。	アドリブは取れる人のみで構わないが、使える音を理解する
21	/	実習	On Fireの演奏	テンポを変えて演奏し、一人一人がアレンジを考え曲に対しての様々なアプローチを実践
22	/	実習	On Fireの演奏	曲を通して演奏できる事を目標とし、アドリブ、エンディングをしっかりとできるように
23	/	実習	Funk Groove(Pops & Fusion)の演奏	ストラミング、コンピング、ミュート、コーストノートを練習する
24	/	実習	R&B(Blues)の演奏	ペントニックアドリブを練習する オリジナルパターン
25	/	実習	R&B(Pops)の演奏	ペダルコード、ペダルトーンを練習する メジャーペントニック
26	/	実習	Jazz Fusion(Funk Blues)の演奏	The Chicken 聞き込み、練習する
27	/	実習	Pops(Rock)の演奏	初見対応力(コード)を身に付ける テンポイメージ
28	/	実習	Pops(Slow)の演奏	バラード構成力を身に付ける コード進行からキメを読み込む
29	/	実習	Pops(Arrange)の演奏	独創力を身に付ける 指示出しの方法を学ぶ
30	/	試験		
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 Band Ensemble 課題曲譜面&音源 / Inst Ensemble(黒瀬 寛幸) I & II				

科目名 (英)	制作実習 I (Studio Workshop I)	必修 選択	必修選択	年次	1年	担当教員	條範行
		授業 形態	実習	総時間 (単位)	120 4	開講区分 曜日・時限	年間 金曜1,2限
学科・コース	音楽コミュニケーション科(3年制昼間I部)						
教員の略歴	1998年より(株)東北共立に所属し、コンサート・舞台等の現場にてPAエンジニアとして活躍する。						
授業の学習内容	実習を通じ、PAエンジニアとして必要になる基礎的な機材知識、信号の流れ、電気について、機材セッティングからサウンドチェック・ライブ本番・撤収までの流れを理解する。 社会人としてのコミュニケーション、あいさつ、音響・照明・舞台業界全体の仕組みやお金の流れ、それに伴う職に対する姿勢を理解する。						
到達目標	ミュージカル・WE AREのステージングを学び、楽器へのマイキングを学ぶ。 仮設PAセットを接続し音を出せるようにする。						
評価方法及び基準	定期テスト50% 実技テスト50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	実習	職業理解を深め、心構えを身につける	目標を再確認し、プリントにまとめる
2	/	実習	安全教育 機材の扱い方を身につける	皮手袋、マグライトの扱い方を復習する
3	/	実習	音響・照明・舞台業界全体の仕組み職業を理解する	業界研究し、理解を深める
4	/	実習	ケーブル巻・マイクロホン・スタンドの扱い方を習得する	様々な長さ・太さのケーブル巻きを練習する
5	/	実習	コネクター・マルチケーブルの種類と使用方法を理解する	音響機器マニュアルを熟読する
6	/	実習	音響・照明・舞台業界全体の仕組み職業を理解する	業界研究し、理解を深める
7	/	実習	オームの法則・電気を理解する	電気信号の流れ、記号を復習する
8	/	実習	仙台PIT音響機材、設備について	校内ホール設備を使用して復習する
9	/	実習	外部ホール実習、舞台機構を学ぶ	図面を見て内容を理解する
10	/	実習	ライブイベントに向けての準備を行う	出演者情報を基にプランシートを作成する
11	/	実習	ライブイベントに向けてのサウンドチェックを行う	出演者を交えてコラボレーションイベント制作を行う
12	/	実習	ライブイベントゲネプロ	出演者を交えてコラボレーションイベント制作を行う
13	/	実習	ライブイベント本番①	出演者を交えてコラボレーションイベント制作を行う
14	/	実習	ライブイベント本番②	出演者を交えてコラボレーションイベント制作を行う
15	/	実習	PA機器の音声信号の流れを理解する	マイクからスピーカーまでのシステムを復習する
16	/	実習	外部ホール実習、ラインアレイスピーカーの構造を知る	機材リスト・タイムテーブルの読み込みを行う
17	/	実習	アナログ卓・EQを使用し実際に接続を理解する①	EQの周波数と音の相互性を復習する
18	/	実習	アナログ卓・EQを使用し実際に接続を理解する②	EQの周波数と音の相互性を復習する
19	/	試験	実技試験:ベーシックな音響機器の組み立てとオペレートを行う	実際の機器を準備して予習する
20	/	実習	ステージモニターを追加し、簡易セットを設営、撤去、チェックする①	セッティング内容・機器のリスト・設定を理解する
21	/	実習	ステージモニターを追加し、簡易セットを設営、撤去、チェックする②	セッティング内容・機器のリスト・設定を理解する
22	/	実習	イベントを想定し、仕込み、リハーサル、オペレーションについて学習する①	イベントの目的を理解し、必要な準備を適切に定めて制作する
23	/	実習	イベントを想定し、仕込み、リハーサル、オペレーションについて学習する②	イベントの目的を理解し、必要な準備を適切に定めて制作する
24	/	実習	外部ホール実習、ミュージカルバンドのオペレートを体験する	出演者の情報を事前に入手し、円滑な進行ができるよう準備する
25	/	実習	ピンマイクの扱い方を習得する①	A帯ワイヤレスマイクの申請のルールを理解する
26	/	実習	ピンマイクの扱い方を習得する②	ピンマイクの養生と取り付け、取り外し、バッテリー管理などの復習
27	/	実習	回線表を理解しそのとおりに仕込みを行えるようにする①	回線図の読み込みを復習する
28	/	実習	回線表を理解しそのとおりに仕込みを行えるようにする②	回線図の読み込みを復習する
29	/	試験	実技・筆記試験:舞台機構調整士技能認定3級試験を想定したテストを行う	過去問題を参考に予習する
30	/	実習	外部ホール実習、卒業進級展ライブ実習を行う	出演者との綿密な情報交換と、各セッションとのミーティングを行い、クリアにする
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				
PA入門				

科目名 (英)	制作実習Ⅱ (Studio WorkshopⅡ)	必修 選択	必修選択	年次	2年	担当教員	條範行
		授業 形態	実習	総時間 (単位)	120 4	開講区分 曜日・時限	年間 水曜1・2限
学科・コース	音楽コミュニケーション科(3年制昼間Ⅰ部)						
教員の略歴	1998年より(株)東北共立に所属し、コンサート・舞台等の現場にてPAエンジニアとして活躍する。						
授業の学習内容	卒業までの残り2年間となり、卒業後の就職を具体的に考える 1年生の復習 PA機器接続の理解 個々の楽器の音の作り方を学び、音量・音質・バランスの感覚を習得する。 舞台機構調整技能士3級の実技・ヒアリング・筆記試験の反復練習 作業スピードを上げるにはどうするかを考えさせる						
到達目標	PA機器を全員が接続～音を出せるようにする 舞台機構調整技能士3級全員合格 バンドのミックスバランスを習得する ミュージカル本番を想定した仕込み～本番～バラシの時間を考える						
評価方法及び基準	定期テスト50% 実技テスト50%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1	／	実習	各自卒業後の目標を立て、それに向けてどのようなスキルを磨いていべきかディスカッションを行う		目標シートを作成する
2	／	実習	仮設PAセットのシステムを理解し、組み立て・接続をできるようにする①		セッティングシート・回線図を作成する
3	／	実習	仮設PAセットのシステムを理解し、組み立て・接続をできるようにする②		グループワークの分担表を作成する
4	／	実習	仮設PAセットのシステムを理解し、組み立て・接続をできるようにする③		設定時間内に作業ができるよう練習する
5	／	実習	周波数の帯域を理解し、自分の耳で変化を聞き分ける訓練を行う①		各種機器に備わっているイコライザーの特性を理解する
6	／	実習	周波数の帯域を理解し、自分の耳で変化を聞き分ける訓練を行う②	メインスピーカー、モニタースピーカー、ヘッドホンなど異なる機器による出音の違いを知る	
7	／	実習	デジタル卓を使用して設定方法を習得する①	AD/DAコンバーター・Dante・LAN・マトリックスについて復習する	
8	／	実習	デジタル卓を使用して設定方法を習得する②	Webpadアプリでのコントロール・マイク・音源を使用したサウンドチェック復習する	
9	／	実習	外部ホール実習、舞台機構を学ぶ		図面を見て内容を理解する
10	／	実習	ライブイベントに向けての準備を行う		出演者情報を基にプランシートを作成する
11	／	実習	ライブイベントに向けてのサウンドチェックを行う		出演者を交えてコラボレーションイベント制作を行う
12	／	実習	ライブイベントゲネプロ		出演者を交えてコラボレーションイベント制作を行う
13	／	実習	ライブイベント本番①		出演者を交えてコラボレーションイベント制作を行う
14	／	実習	ライブイベント本番②		出演者を交えてコラボレーションイベント制作を行う
15	／	実習	ワイヤレスマイクの種類とチャンネルプランについて習得する	ハンドタイプ、ベルトバックタイプそれぞれのバッテリーやボタン設定などを確認する	
16	／	実習	外部ホール実習、ワイヤレスマイクのオペレーションを行う		事前に特定ラジオマイク連盟への申請書類を作成し、送信する
17	／	実習	音作り・エフェクタの使用方法を学ぶ	コンプレッサー、リミッターなどダイナミクス系エフェクタの基本的なセッティングを復習する	
18	／	実習	音作り・エフェクタの使用方法を学ぶ②	リバーブ、ディレイなど空間系エフェクタの基本的なセッティングを復習する	
19	／	試験	実技試験：デジタル回線を使用した音響機器の組み立てとオペレートを行う		実際の機器を準備して予習する
20	／	実習	回線表・プランの作成方法を習得する	仮想のライブを見立てて各自で回線表を作成しプラン通りのセッティングを行ってみる	
21	／	実習	ミュージカルを想定し回線プランを作成する①	昨年度までの各種資料を基に実際の斬新等を加えたプランをグループで作成する	
22	／	実習	ミュージカルを想定し回線プランを作成する②	本番で利用するホールのプラン及びリハーサル用の設定など各種作成してみる	
23	／	実習	スピーカーのチューニングを習得する①	ピンクノイズを鳴らしてHI、HI-MID、MID、LOWのなり方を聴き比べる	
24	／	実習	外部ホール実習、ミュージカルバンドのオペレートを体験する		出演者の情報を事前に入手し、円滑な進行ができるよう準備する
25	／	実習	ピンマイクの扱い方を習得する①	ラベリアマイクフォンの特性について教科書とマニュアルを見比べて復習する	
26	／	実習	ピンマイクの扱い方を習得する②	実際の現場で取り付けるために必要なテープ類や汗かき養生用品を復習する	
27	／	実習	トラブルシューティング、ステージ上で起こりうるトラブルについて学ぶ①	参考用のライブ映像を鑑賞し、トラブルの起こりやすい環境、場面を考える	
28	／	実習	トラブルシューティング、PA卓上で起こりうるトラブルについて学ぶ②	デジタル卓で起こりうる、デジタルループやネットワーク回線トラブルについて復習する	
29	／	試験	実技・筆記試験：舞台機構調整士技能認定3級試験を想定したテストを行う		過去問題を参考に予習する
30	／	実習	外部ホール実習、卒業進級展ライブ実習を行う		出演者との綿密な情報交換と、各セクションとのミーティングを行い、クリアにする
準備学習 時間外学習					
【使用教科書・教材・参考書】□					
PA入門					

科目名 (英)	制作実習Ⅲ (Studio WorkshopⅢ)	必修 選択	必修 選択	年次	3年	担当教員	阿部央到
学科・コース	音楽コミュニケーション科(3年制昼間Ⅰ部)	授業 形態	実習	総時間 (単位)	120 4	開講区分	年間 月曜1・2 限
教員の略歴	2001年より(株)東北共立に所属し、コンサート・舞台等の現場にて照明オペレーターとして活躍する。						
授業の学習内容	照明エンジニアを目指すうえで、必要な知識を知る。 基本的な機材の種類や用途、分電盤や調光ユニットについて、調光卓やDMX制御など信号系の把握。 いろいろなイベントでの準備から仕込み、シュート、明かり作り、リハーサル、本番、バラシまでの作業内容、作業工程への理解。 照明の作業は大きなイベントになるほどたくさんの人たちと関わる仕事です。あいさつやコミュニケーションの大切さやなども身につける。						
到達目標	仕込みからシュート・本番でのPINスポットの必要性の理解、実技。						
評価方法と基準	実技40%・授業内評価60%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	実習	舞台照明とは何かを知る	校内ホール設備を使用して復習する
2	/	実習	光の三原色を学ぶ	校内ホール設備を使用して復習する
3	/	実習	レンズの種類を学ぶ	校内ホール設備を使用して復習する
4	/	実習	ランプの種類を学ぶ	校内ホール設備を使用して復習する
5	/	実習	カラーフィルターを学ぶ	校内ホール設備を使用して復習する
6	/	実習	照明で使用するケーブルを学ぶ	校内ホール設備を使用して復習する
7	/	実習	照明で使用するコネクタを学ぶ	校内ホール設備を使用して復習する
8	/	実習	仙台PIT照明機材、設備について学ぶ	校内ホール設備を使用して復習する
9	/	実習	外部ホール実習、舞台機構を学ぶ	図面を見て内容を理解する
10	/	実習	ライブイベントに向けての準備する	出演者情報を基にプランシートを作成する
11	/	実習	ライブイベントに向けてのピンスポット練習する	ステージ図面を基にシミュレーションリハーサルを行う
12	/	実習	ライブイベントゲネプロを行う	出演者を変えてコラボレーションイベント制作を行う
13	/	実習	ライブイベント本番を行う①	出演者を変えてコラボレーションイベント制作を行う
14	/	実習	ライブイベント本番を行う②	出演者を変えてコラボレーションイベント制作を行う
15	/	実習	ライブイベントの振り返り・反省する	各自が体験した反省点を項目ごとに準備する
16	/	実習	外部ホール実習、インカムを使用した連携を学ぶ	機材リスト・タイムテーブルの読み込みを行う
17	/	実習	デジタル機器への理解を深める①	デジタル機器マニュアルを熟読する
18	/	実習	デジタル機器への理解を深める②	デジタル機器マニュアルを参照し操作を行う
19	/	試験	実技試験：ベーシックな照明機器の吊り込みとオペレートを行う	実際の機器を準備して予習する
20	/	実習	ミュージカル実習に向けた役割分担を行う	本番で使用するホールの機構と必要とされる演出内容を基にメンバーを割り振る
21	/	実習	ミュージカル実習に向けた技術指導を行う①	本番で使用するホールの機構と必要とされる演出内容を基にセクション毎の必要スキルを考える
22	/	実習	ミュージカル実習に向けた技術指導を行う②	本番で使用するホールの機構と必要とされる演出内容を基にセクション毎の必要スキルを置く
23	/	実習	ミュージカル実習に向けた技術指導を行う③	一般灯体吊り、ムービング吊り、ピン吊り、など各チーム合同でシミュレーション作業を行う。
24	/	実習	外部ホール実習、ミュージカルバンドのオペレートを体験する	出演者の情報を事前に入手し、円滑な進行ができるよう準備する
25	/	実習	シュート技術指導を行う①	ステージでの竿振り技術の練習を行う
26	/	実習	シュート技術指導を行う②	サス、フロア、スモークを使用した練習を行う
27	/	実習	図面を見て仕込み→シュート→バラシの総合実技を行う①	クラス内でチームを編成し、仕込み図を作成する
28	/	実習	図面を見て仕込み→シュート→バラシの総合実技を行う②	制限時間内で規定の作業を行えるよう練習する
29	/	試験	実技・筆記試験：舞台テレビジョン照明オペレーター技能認定を想定したテストを行う	過去問題を参考に予習する
30	/	実習	外部ホール実習、卒業進級展ライブ実習を行う	出演者との綿密な情報交換と、各セクションとのミーティングを行い、クリアにする
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	パフォーマンス実習 I (Performance Workshop I)	必修 選択	必修 選択	年次	1年	担当教員	黒瀬寛幸
学科・コース	音楽コミュニケーション科(3年制昼間I部)	授業 形態	実習	総時間 (単位)	120 4	開講区分	年間 金曜1・2限
教員の略歴	1999年からベースプレイヤーとして活動し、ティナーカーナなどのサポートやセッション、ベースマガジンへの寄稿でも知られている。						
授業の学習内容	音楽界が必要としている生演奏のクオリティの向上と楽曲の研究 各科、アナライズの授業でより深く研究、フィードバック 名曲を知り、音楽に対する尊さと思慮深さを身につける 以上を踏まえ、三回で1クールとし楽器陣は二曲、ヴォーカルは1曲を課題曲とする。						
到達目標	バンド内での音楽的コミュニケーションを知り、全体で音楽を作る習慣を身につける。						
評価方法と基準	1)定期テスト60% 2)授業内評価40% ※各クール 3回目をテストとし、ライブ形式での実演を評価とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	／	実習	下記楽曲を練習する 男性曲 Stand by me 女性曲 Soak Up The Sun	Vo別室・楽器合同でアナライズの授業にて予習する 全パート合同で練習する変更点、アレンジ定着
2	／	実習	テスト、次回曲解説を行う	全パート合同で練習するMDを含む進捗案を考えてくる
3	／	実習	下記楽曲を練習する 男性曲 Can't By Me Love 女性曲 Girl Friend	Vo別室・楽器合同でアナライズの授業にて予習する 全パート合同で練習する変更点、アレンジ定着
4	／	実習	テスト、次回曲解説を行う	全パート合同で練習するMDを含む進捗案を考えてくる
5	／	実習	下記楽曲を練習する 男性曲 Born To Be Wild 女性曲 I Feel The Earth Move	Vo別室・楽器合同でアナライズの授業にて予習する 全パート合同で練習する変更点、アレンジ定着
6	／	実習	テスト、次回曲解説を行う	全パート合同で練習するMDを含む進捗案を考えてくる
7	／	実習	下記楽曲を練習する 男性曲 Play That Funky Music 女性曲 Reach	Vo別室・楽器合同でアナライズの授業にて予習する 全パート合同で練習する変更点、アレンジ定着
8	／	実習	下記楽曲を練習する Music International Project(未定)	Vo別室・楽器合同でアナライズの授業にて予習する 全パート合同で練習する変更点、アレンジ定着
9	／	実習	テスト、次回曲解説を行う	全パート合同で練習するMDを含む進捗案を考えてくる
10	／	試験	前期総合テスト	
11	／	実習	下記楽曲を練習する 海外研修曲(未定)	Vo別室・楽器合同でアナライズの授業にて予習する 全パート合同で練習する変更点、アレンジ定着
12	／	実習	テスト、次回曲解説を行う	全パート合同で練習するMDを含む進捗案を考えてくる
13	／	実習	下記楽曲を練習する Music International Project(未定)	Vo別室・楽器合同でアナライズの授業にて予習する 全パート合同で練習する変更点、アレンジ定着
14	／	実習	テスト、次回曲解説を行う	全パート合同で練習するMDを含む進捗案を考えてくる
15	／	実習	下記楽曲を練習する 男性曲 Any Way Want It 女性曲 Hot Stuff	Vo別室・楽器合同でアナライズの授業にて予習する 全パート合同で練習する変更点、アレンジ定着
16	／	実習	テスト、次回曲解説を行う	全パート合同で練習するMDを含む進捗案を考えてくる
17	／	実習	下記楽曲を練習する WeareSSM 対策期間 全楽曲の復習・パフォーマンス練習	バンドごとのリハーサルを行う 他授業でのアレンジ ブラッシュアップ要点確認
18	／	実習		
19	／	実習		
20	／	実習		
21	／	試験	卒業進級展ライブ	
準備学習 時間外学習			各曲の様々なバージョンをYoutube等での閲覧、取り入れ	
【使用教科書・教材・参考書】				
SCA製作譜面、メモ用五線譜、楽器、シールド、チューナー、エフェクター等				

科目名 (英)	パフォーマンス実習Ⅱ (Performance WorkshopⅡ)	必修 選択	必修 選択	年次	2年	担当教員	黒瀬寛幸
学科・コース	音楽コミュニケーション科(3年制昼間Ⅰ部)	授業 形態	実習	総時間 (単位)	120 4	開講区分	年間 月曜2・3限
教員の略歴	1999年からベースプレイヤーとして活動し、ティーンカーリーナなどのサポートやセッション、ベースマガジンへの寄稿でも知られている。						
授業の学習内容	音楽界が必要としている生演奏のクオリティの向上と楽曲の研究 各科、アナライズの授業でより深く研究、フィードバック 名曲を知り、音楽に対する尊さと思慮深さを身につける 以上を踏まえ、三回で1クールとし楽器陣は二曲、ヴォーカルは1曲を課題曲とする。						
到達目標	バンド内での音楽的コミュニケーションを知り、全体で音楽を作る習慣を身につける。						
評価方法と基準	1)定期テスト60% 2)授業内評価40% ※各クール 3回目をテストとし、ライブ形式での実演を評価とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	／	実習	下記楽曲を練習する 男性曲 Up Town Girl 女性曲 Perfect	Vo別室・楽器合同でアナライズの授業にて予習する 全パート合同で練習する楽更点、アレンジ定着
2	／	実習	テスト、次回曲解説を行う	全パート合同で練習するMDを含む進行案を考えてくる
3	／	実習	下記楽曲を練習する 男性曲 Virtual Insanity 女性曲 We Are Never Ever Getting Back Together	Vo別室・楽器合同でアナライズの授業にて予習する 全パート合同で練習する楽更点、アレンジ定着
4	／	実習	テスト、次回曲解説を行う	全パート合同で練習するMDを含む進行案を考えてくる
5	／	実習	下記楽曲を練習する 男性曲 Rossana 女性曲 Break Out	Vo別室・楽器合同でアナライズの授業にて予習する 全パート合同で練習する楽更点、アレンジ定着
6	／	実習	テスト、次回曲解説を行う	全パート合同で練習するMDを含む進行案を考えてくる
7	／	実習	下記楽曲を練習する 男性曲 Ain't No Mountain High Enough 女性曲 We Are The World	Vo別室・楽器合同でアナライズの授業にて予習する 全パート合同で練習する楽更点、アレンジ定着
8	／	実習	テスト、次回曲解説を行う	全パート合同で練習するMDを含む進行案を考えてくる
9	／	実習	下記楽曲を練習する Music International Project(未定)	Vo別室・楽器合同でアナライズの授業にて予習する 全パート合同で練習する楽更点、アレンジ定着
10	／	実習	テスト、次回曲解説を行う	全パート合同で練習するMDを含む進行案を考えてくる
11	／	試験	前期総合テスト	
12	／	実習	男性曲 Can't Fight This Feeling 女性曲 Heart Breaker	Vo別室・楽器合同でアナライズの授業にて予習する 全パート合同で練習する楽更点、アレンジ定着
13	／	実習	テスト、次回曲解説を行う	全パート合同で練習するMDを含む進行案を考えてくる
14	／	実習	下記楽曲を練習する Music International Project(未定)	Vo別室・楽器合同でアナライズの授業にて予習する 全パート合同で練習する楽更点、アレンジ定着
15	／	実習	テスト、次回曲解説を行う	全パート合同で練習するMDを含む進行案を考えてくる
16	／	実習	下記楽曲を練習する 男性曲 September 女性曲 How Do I Live	Vo別室・楽器合同でアナライズの授業にて予習する 全パート合同で練習する楽更点、アレンジ定着
17	／	実習	テスト、次回曲解説を行う	全パート合同で練習するMDを含む進行案を考えてくる
18	／	実習	下記楽曲を練習する WeareSSM 対策期間 全楽曲の復習・パフォーマンス練習	Vo別室・楽器合同でアナライズの授業にて予習する 全パート合同で練習する楽更点、アレンジ定着
19	／	実習	全パート合同で練習するMDを含む進行案を考えてくる	
20	／	実習	全パート合同で練習するMDを含む進行案を考えてくる	
21	／	試験	卒業進級展ライブ	
準備学習 時間外学習			各曲の様々なバージョンをYoutube等での閲覧、取り入れ	
【使用教科書・教材・参考書】				
SCA製作譜面、メモ用五線譜、楽器、シールド、チューナー、エフェクター等				

科目名 (英)	パフォーマンス実習Ⅲ (Performance WorkshopⅢ)	必修 選択	必修選択	年次	3年	担当教員	黒瀬寛幸
		授業 形態	実習	総時間 (単位)	120 4	開講区分	年間 水曜1・2限
学科・コース	音楽コミュニケーション科(3年制昼間I部)						
教員の略歴	1999年からベースプレイヤーとして活動し、ティナーカリーナなどのサポートやセッション、ベースマガジンへの寄稿でも知られている。						
授業の学習内容	ミュージシャンとして知っておきべき曲のアナライズと実演 難曲の攻略方法とタイムファーストの徹底 各曲レコーディングにて客観的に判断						
到達目標	リズムを頼れる理解力と演奏力の習得						
評価方法と基準	1) 定期テスト60% 2) 授業内評価40% ※各クール 3回目をテストとし、レコーディング形式での実演を評価とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	実習	Funk Fusionを学ぶ	タイトな16ビートを身に付ける
2	/	実習	Funk Fusionを学ぶ	グルーヴチェンジを練習する
3	/	実習	Funk Fusionを学ぶ	スラップ、ギターメロディの練習を練習する
4	/	試験	レコーディングを行う	機材と音色選定を行う
5	/	実習	Bossa Novaを学ぶ	アクセントの違いを意識する
6	/	実習	Bossa Novaを学ぶ	コード知識とポインティングを学ぶ
7	/	実習	Bossa Novaを学ぶ	ピアノメロディを練習する
8	/	試験	レコーディングを行う	マイキングでの音の違いを学ぶ
9	/	実習	Sambaを学ぶ	Tuttiを練習する
10	/	実習	Sambaを学ぶ	アドリブを練習する
11	/	実習	Sambaを学ぶ	サンバキック、ピアノメロディ、全員アドリブができるよう練習する
12	/	試験	レコーディング	アドリブの客観性を意識する
13	/	実習	Fusion(Cross Over)を学ぶ	ペンタトニックを使って練習する
14	/	実習	Fusion(Cross Over)を学ぶ	コード進行の仕組みを理解する
15	/	実習	Fusion(Cross Over)を学ぶ	ギターインストを参考にする
16	/	試験	レコーディング	原曲に忠実な音色を目指す
17	/	実習	Jazzを学ぶ	Swingの基本と応用を身に付ける
18	/	実習	Jazzを学ぶ	各パートメロディが演奏できるよう練習する
19	/	実習	Jazzを学ぶ	アドリブ(オルタード併用)を練習する
20	/	試験	レコーディング	ジャズっぽさの想像を膨らませる
21	/	実習	Latin Jazzを学ぶ	モントューノを練習する
22	/	実習	Latin Jazzを学ぶ	Tuttiを練習する
23	/	実習	Latin Jazzを学ぶ	パーカッションの重要性(全員がコンガ)を学ぶ
24	/	試験	レコーディング	難曲演奏のスタミナ消費ポイント
25	/	実習	Sight Reading & Arrangementを学ぶ	「ミュージシャン」としての最終訓練を行う
26	/	実習	Sight Reading & Arrangementを学ぶ	不足知識、テクニックを把握する
27	/	実習	Sight Reading & Arrangementを学ぶ	音色判断速度を磨く
28	/	試験	レコーディング	自分の音楽性を把握する
29	/	試験	レコーディング	自分の音楽性を把握する
30	/	実習	1年間の振り返り	自分の音楽性を把握する
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				



科目名 (英)	進級制作 (Advanced grade production)	必修 選択	必修	年次	1年・2年	担当教員	大谷靖夫
学科・コース	音楽コミュニケーション科(3年制昼間I部)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	240 16	開講区分	集中
教員の略歴	2000年より作曲家としてavexに所属し、AKB48、乃木坂46、倅田來未、ELT、玉置成実など多数のアーティストに楽曲を提供。						
授業の学習内容	3年生のオリジナルアルバム制作のグループメンバーとして制作作業を共同で行う 作詞・作曲・レコーディング・ミキシング・マスタリングなど						
到達目標	3年目に行う各自の各品制作に向けて、プロセス、スケジュール管理、クオリティチェックなど与えられた期間内に ✓切を意識した作業工程を身につける						
評価方法と基準	1. 授業内評価(%) :50% 2. 筆記試験(%) : 0% 3. 課題(%) : 50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	演習	アルバム制作プロジェクトを行う	グループ編成・ミーティングを行う
2	/	演習	アルバム制作プロジェクトを行う	楽曲制作を行う
3	/	演習	アルバム制作プロジェクトを行う	楽曲制作を行う
4	/	演習	アルバム制作プロジェクトを行う	楽曲制作を行う
5	/	演習	アルバム制作プロジェクトを行う	楽曲制作を行う
6	/	演習	アルバム制作プロジェクトを行う	楽曲制作を行う
7	/	演習	アルバム制作プロジェクトを行う	レコーディングを行う
8	/	演習	アルバム制作プロジェクトを行う	レコーディングを行う
9	/	演習	アルバム制作プロジェクトを行う	レコーディングを行う
10	/	演習	アルバム制作プロジェクトを行う	レコーディングを行う
11	/	演習	アルバム制作プロジェクトを行う	ミキシング・マスタリングを行う
12	/	演習	アルバム制作プロジェクトを行う	ミキシング・マスタリングを行う
13	/	演習	アルバム制作プロジェクトを行う	ミキシング・マスタリングを行う
14	/	演習	アルバム制作プロジェクトを行う	プレゼンテーションリハーサルを行う
15	/	演習	卒業進級展で発表する	企業プレゼンテーション本番を行う
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				
必要に応じてプリント配布				

科目名 (英)	卒業制作 (Graduation production)	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	大谷靖夫
学科・コース	音楽コミュニケーション科(3年制昼間I部)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	180 12	開講区分	集中
教員の略歴	2000年より作曲家としてavexに所属し、AKB48、乃木坂46、倅田來未、ELT、玉置成実など多数のアーティストに楽曲を提供。						
授業の学習内容	3年間学んだスキルを活用して、業界にリクレーティングをする為のオリジナル作品を各自作成する 作詞・作曲・レコーディング・ミキシング・マスタリングなど						
到達目標	グループワークで1枚40分以上ある音楽アルバムを作成し、卒業進級展にて業界各企業にプレゼンテーションを行う						
評価方法と基準	1. 授業内評価(%) :50% 2. 筆記試験(%) : 0% 3. 課題(%) : 50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	演習	アルバム制作プロジェクトを行う	グループ編成・ミーティングを行う
2	/	演習	アルバム制作プロジェクトを行う	楽曲制作を行う
3	/	演習	アルバム制作プロジェクトを行う	楽曲制作を行う
4	/	演習	アルバム制作プロジェクトを行う	楽曲制作を行う
5	/	演習	アルバム制作プロジェクトを行う	楽曲制作を行う
6	/	演習	アルバム制作プロジェクトを行う	楽曲制作を行う
7	/	演習	アルバム制作プロジェクトを行う	レコーディングを行う
8	/	演習	アルバム制作プロジェクトを行う	レコーディングを行う
9	/	演習	アルバム制作プロジェクトを行う	レコーディングを行う
10	/	演習	アルバム制作プロジェクトを行う	レコーディングを行う
11	/	演習	アルバム制作プロジェクトを行う	ミキシング・マスタリングを行う
12	/	演習	アルバム制作プロジェクトを行う	ミキシング・マスタリングを行う
13	/	演習	アルバム制作プロジェクトを行う	ミキシング・マスタリングを行う
14	/	演習	アルバム制作プロジェクトを行う	プレゼンテーションリハーサルを行う
15	/	演習	卒業進級展で発表する	企業プレゼンテーション本番を行う
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				